日 時 令和7年6月11日(月) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番	後藤隆夫	2番	八戸実
3番	成田浩基	4番	工藤和行
5番	工藤禎子	6番	大久保朝泰
7番	大溝雅昭	8番	黒石ナナ子
9番	三上廣大	10番	今大介
11番	工藤俊広	12番	北山一衛
13番	中田博文	14番	佐々木隆
15番	村上啓二	16番	村上隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長	高 樋 憲	総 務 部 長	中 田 憲 人
企画財政部長	樋 口 秀 仁	健康福祉部長 兼福祉事務所長	佐々木 順 子
農 林 部 長 農業委員会事務局長併任	佐 藤 久 貴	商工観光部長	太 田 淳 也
建 設 部 長	小山内 和 徳	総 務 課 長	工 藤 康 仁
市民環境課長	木 立 健太郎	防災管理室長	山 口 祐 宏
財産管理室長	森 山 学	企 画 課 長	佐 藤 弘 樹
財 政 課 長	福 士 牧 人	福祉総務課長	齋 藤 誠
健康推進課長	佐 藤 千枝子	農 林 課 長 兼バイオ技術センター所長	三 上 英 樹
観 光 課 長	津 川 美奈子	都市建築課長	村 元 裕
農業委員会会長	木 立 康 行	選挙管理委員会委員長	山 田 明 匡
監 査 委 員	今 田 貴 士	教 育 長	山 内 孝 行
教 育 部 長 兼市民文化会館長	駒 井 俊 也	教育委員会理事 兼 指 導 課 長	小山内 徹
社会教育課長 兼市立図書館次長	佐 藤 周 紀	文化スポーツ課長	池 田 守 臣

黒石病院事務局長 山口 俊 英

会議に付した事件の題目及び議事日程

令和7年第2回黒石市議会定例会議事日程 第2号

令和7年6月11日(水) 午前10時 開 議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事 務 局 長	太 田 誠
次 長	山 谷 成 人
次 長 補 佐	大 野 隆
主 事	秋 田 麻 尋

会議の顛末

午前10時01分 開 議

◎議長(工藤和行) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第2号をもって進めます。

◎議長(工藤和行) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

1番後藤隆夫議員及び16番村上隆昭議員を指名いたします。

◎議長(工藤和行) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次、質問を許します。

初めに、9番三上廣大議員の質問を許します。9番三上廣大議員。

登 壇

◎9番(三上廣大) おはようございます。黒石自民クラブの三上廣大でございます。通告に従いまして、早速質問をさせていただきます。

初めに、ローソン黒石角田店付近交差点への信号機設置についてお聞きします。

今年4月より供用が開始された交差点ですが、通学路ということもあり、工事の段階から多くの市民、そして地域住民より、信号機が設置されないことに対し不安や心配とともに、早期の信号機設置の声が出ておりました。しかしながら、大変残念なことに、供用開始となったその月に、自動車と自転車が交差点内において接触するという事故が発生しております。

そこで、この現状を踏まえ、本市では交差点への信号機設置についてどのように考えている

のかお聞きします。

次に、黒石ねふた祭りについて3点お聞きします。

まずは、今年度の参加団体と台数についてお知らせください。

2点目として、今冬の豪雪によるねふた小屋等への被害と影響について、担当課で把握しておられましたらお知らせください。

3点目として、新型コロナウイルスの騒動の影響もあり、昨今、急激に参加台数が減少した祭りの現状について、多くの市民の方から、将来の祭りの存続自体を心配する声も聞かれるようになってきました。

そこで、祭りの今後について、当市ではどのように考えているのかお聞きします。

次に、黒石運動公園黒石市民プールについてお聞きします。この質問についても、今冬の豪雪被害に関する質問であります。

1点目として、前回定例会において八戸実議員も質問されており、既に答弁として出ておりますが、改めてウオータースライダーの破損状況についてお知らせください。

2点目として、ウオータースライダーの使用は不可能と思われる一方で、今月1日より、プールの監視員募集も始まったことから、今年度のプールの運営はどのようになるのか併せてお知らせください。

次に、黒石病院についてお聞きします。

初めに、近隣市町村の利用状況についてどのようになっているのかお知らせください。

2点目として、先日新聞報道にあった十和田市立中央病院が、市外居住者の入院個室使用料を市民の1.4倍とする新料金設定案を現在、市議会へ提出しており、可決されれば、8月1日より新料金が適用されるとのことです。

そこで、これまでも黒石病院として様々経営改善に関する努力はされていることとは承知しておりますが、十和田市の取組のように、入院個室使用料を含む市外患者に対する利用料金見直し等について、病院側のお考えをお知らせください。

3点目として、前回定例会に引き続きの議論となりますが、今後の黒石病院事務組合化へ向けた取組の現状についてお知らせください。

次に、中学校部活動の地域移行についてお聞きします。

部活動の地域移行とは、中学校の部活動を学校から切り離し、地域のクラブや団体が主体となって運営する地域クラブ活動へ移行する取組で、令和5年度より本格的にスタートしております。

そこで、当市における取組の進捗状況及び今後についてお知らせください。また、今年度の部活動の状況についても併せてお知らせください。

最後に、豪雪による農林被害についてお聞きします。

先月27日に市豪雪対策本部が廃止となり、それに伴い報告された被害状況の資料を事前に頂いてはおりますが、今回の災害級の豪雪による農林被害について改めてお知らせください。また、既に市独自の対応も進められているものと理解をしておりますが、国・県からの今後の支援を踏まえたさらなる対応についてお聞きします。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。

(拍手)

降 壇

◎議長（工藤和行） 理事者の答弁を求めます。市長。

登 壇

◎市長（高樋憲） 三上廣大議員にお答えいたします。私からは、豪雪による農林被害についての今後の対応について答弁させていただきます。

市では、これまで豪雪への対応といたしまして、農業者が早期に樹園地に入れるよう例年より時期を早めた農道除雪を実施したほか、融雪剤の購入費用の一部助成、消雪に効果が認められるウッドチップの無料配布を実施いたしております。

今後は、現在、供給不足となっているりんごの苗木について、黒石市農業生産推進本部において実施した豪雪相談窓口や農業資材等数量調査の結果を基に、農業者が必要とする品種や苗木について、苗木の取扱業者に対して数量確保に向けた働きかけを行ってまいります。

あわせて、生産基盤の復旧に向けた支援といたしまして、りんご苗木や支柱などの購入経費の一部助成、また、県が実施する農業用ハウスなどの復旧に係る経費の一部助成へのかさ上げを行う予定になっております。

そのほか、りんご生産者から伐採樹の処理に困っているとの声が多く寄せられておりますので、集積場所を市内に設置し、まきとして使用する市民の方々を中心に無料配布する予定といたしております。

先般、国は今冬の豪雪被害への支援策として、りんごなどの被害樹の植え替えや省力樹形への転換、未収益期間の支援を行うほか、中・長期的な対策として、産地単位で苗木を確保するため、圃場整備を支援することを発表いたしております。

市におきましても、国や県の動向を注視しながら対応してまいりたいと考えております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（工藤和行） 農林部長。

◎農林部長農業員会事務局長併任（佐藤久貴） 私からは、豪雪による農林被害についての被害状況についてお答えいたします。

今冬の豪雪による農林関係の被害総額は36億4379万2000円に上っております。そのうち、最も大きい割合を占めたのがりんごの枝折れであり、被害額は36億981万7000円です。被害面積は、市内のりんご栽培面積1228ヘクタールの74.3%に当たる912ヘクタールとなっております。今回の枝折れにより、本市の本年産のりんご生産量は4044トンの減少が見込まれております。

次に、その他の被害といたしましては、農業用のハウスの損壊が38件、面積にして7932平方メートル、被害額は2699万5000円です。次に、ブドウ棚の損壊が4件、面積にして9428平方メートル、被害額は410万円となっております。最後に、農作業小屋の損壊が2件、面積にして48平方メートル、被害額は288万円となっております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田淳也） 私からは、黒石ねぶた祭りについて3点答弁いたします。

まず、参加団体と台数についてであります。令和7年度の合同運行参加台数の見込みについて、主催者である黒石青年会議所に確認したところ、人形ねぶた2台、大型の扇ねぶた19台、中型の扇ねぶた13台の計34台が参加する見込みです。また、34団体のうち、21団体が前ねぶたの製作も行う予定です。

続きまして、豪雪によるねぶた小屋等への被害と影響についてであります。まず、ねぶた小屋の被害についてですが、完全に小屋が倒壊した団体が5団体、一部損害を受けた団体が9団体です。ねぶた本体が完全に壊れた団体が2団体、一部損害を受けた団体は7団体です。その他、太鼓小屋、太鼓台車や前ねぶたなどの関連設備に被害を受けた団体は12団体です。何らかの雪害を被った団体は18団体であり、この被害によって合同運行の参加を断念した団体は2団体です。

最後に、黒石ねぶた祭りの今後についてということですが、黒石青年会議所の会員数の減少についても把握しております。主催する黒石ねぶた祭りの存続に関する具体的な相談は今のところ受けておりません。

黒石青年会議所が長年主催し、誇りと責任を持って運営している祭りですので、市としてできる限りの支援を行い、今後の祭りの在り方についても、黒石青年会議所の意向を尊重してまいります。

黒石ねぶた祭りは、地域コミュニティの絆のためにも大切な祭りとして認識しておりますので、行政としてできることは最大限行ってまいります。

以上です。

◎議長（工藤和行） 建設部長。

◎建設部長（小山内和徳） 私からは、ローソン黒石角田店付近交差点への信号機設置について

と黒石運動公園黒石市民プールについてお答えいたします。

初めに、ローソン黒石角田店付近交差点への信号機の設置についてですが、ローソン黒石角田店付近交差点は、黒石都市計画道路事業3・4・7号黒石環状線整備工事で整備しており、工事開始前から黒石警察署と交差点協議を行ってまいりました。

信号機の設置については、令和元年から令和6年度まで6回ほど協議の中でお願いしてまいりましたが、一時停止のためのカラー舗装の実施、一時停止の注意喚起の看板設置、黒石警察署による交差点での交通指導の実施、これらの対策を講じることとし、令和7年4月の供用開始時での信号機設置には至りませんでした。

供用開始後も引き続き交差点の交通状況を確認しておりましたが、4月11日に交通事故が発生したため、再度、黒石警察署と協議を行い、早急に対応していただきたいことから、5月2日付で信号機の設置の要望書を提出しております。

信号機の必要性につきましては、交通量の増加により交差点付近の危険性が高まっていることや、歩行者の安全確保の観点から、信号機の設置は必要であると考えております。

次に、黒石運動公園黒石市民プールについてのウオーターライダーの破損状況と、今年度の運営についてお答えいたします。

ウオーターライダーの破損状況につきましては、本年1月下旬の現地確認において、上部カバー並びに滑走部の破損を確認いたしました。その後、雪解けとなった4月中旬に再度現地確認を行ったところ、ウオーターライダー連結部分の破損やひび割れ、ボルトの腐食を多数確認いたしました。

これらの状況を踏まえ、今年度のプール運営に当たり、ウオーターライダー本体や部材の落下のおそれがあることから、プール利用者の安全を第一優先として、ウオーターライダー滑走部分の撤去を決定し、5月末に作業を完了しております。

今年度の運営につきましては、撤去が完了し、プール利用者の安全が確保されたため、プール運営を例年どおり実施することとし、今年度のプール開きに向け準備を進めているところで

す。

以上です。

◎議長（工藤和行） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長（小山内徹） 私からは、中学校部活動の地域移行の進捗状況及び今後の取組についてお答えいたします。

教育委員会では、附属機関である黒石市立学校部活動の地域移行に関する検討委員会を設置し、昨年度、その検討委員会を3回開催いたしました。

検討委員会では、委員である市スポーツ協会の代表者、学識経験者、中学校の教員及び保護

者から、平日を含めた部活動の地域移行の実施に向けた課題や運営方法等について意見を頂き、検討した内容をまとめて、黒石市立学校部活動の地域移行推進計画を令和7年3月に策定いたしました。

推進計画の中では、中学校が2校という利点を生かした合同部活動の実施や、顧問の先生方の負担軽減を図るため、地域の人材を生かした部活動指導員を各中学校へ配置する方針を進めることとなりました。今年度は、野球部とソフトボール部が合同部活動を行っており、黒石中学校の部活動指導員は陸上部に2人、中郷中学校の部活動指導員は卓球部に1人、ソフトボール部に1人の合計4人を配置しております。なお、本年度の部活動の設置数につきましては、黒石中学校は運動部が10、文化部が3、中郷中学校は運動部が8、文化部が3となっております。

引き続き、国や県の動向を注視しながら、7月、10月に開催される検討委員会において、今後の部活動の在り方について検討し、生徒や教職員、地域にとって持続可能な部活動を展開できるよう、各中学校への支援を続けてまいりたいと思います。

以上となります。

◎議長（工藤和行） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（山口俊英） 私からは、黒石病院について3点お答えいたします。

まず、アの近隣市町村の利用状況についてであります。黒石病院における近隣市町村住民の利用状況について、令和2年度から令和6年度までの5か年平均値でお答えいたします。

初めに、入院患者の年間延べ人数は6万1257人であり、利用者の割合は黒石市が60.4%、次いで平川市が16.6%、青森市が11.4%、田舎館村が5.1%、その他が6.5%となっております。

次に、外来患者の年間延べ人数は12万755人であり、利用者の割合は黒石市が70.2%、次いで平川市が11.8%、青森市が9.6%、田舎館村が4.8%、その他が3.6%となっております。

これらの実績から、利用者は黒石市民が中心ではありますが、近隣市町村からも相当数の患者を受け入れている状況にあるため、地域の中核的役割を担っているものと考えております。

次に、イの市外患者の料金見直しについてであります。

県内の公立病院では、既に八戸市立市民病院及び三沢市立三沢病院が市外在住の入院患者に対し、個室料金への加算を導入しております。また、十和田市立中央病院も導入を決定し、実施に向けた準備が進められていることを確認しております。

黒石病院におきましては、現時点では実施には至っておりませんが、以前からその必要性について内部検討を進めてきたところであり、今後、適切な時期を見極めながら、できる限り実現したいと考えております。

実際に見直しを行う場合には、金額設定について先行事例を十分に参考としながら、市外在

住の入院患者に過度な負担とならないよう、慎重に検討を重ねてまいります。また、実施に当たっては、手数料条例の改正等、所定の手続が必要となりますので、議会の御理解と御協力を頂きながら準備を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、ウの事務組合化へ向けた取組についてです。

当市では、今年5月に、国に提案・要望する重点施策として、持続可能な地域医療の確立について提案・要望いたしました。

その中の一つに、自治体病院の安定した運営のため、特に財政力の弱い自治体に対しては、地域医療を維持するための安定的な財政支援を整備するとともに、将来を見据え、一部事務組合や地域医療連携推進法人等の経営基盤整備に、国・県が主導し取り組むことを提案・要望しております。

私からは以上です。

◎議長（工藤和行） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎議長（工藤和行） 再質問を許します。9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 御答弁ありがとうございました。ちょっと順番を変えまして再質問に入りたいと思います。

まず、運動公園の市民プールの件についてでありますけれども、前回の定例会でも質問がありました。そのときは、冬期間ということもあって、雪が解けた後に改めて確認したところ、また破損箇所があったようでありますけれども——初めに、確認のためにお伺いしたいんですけども、まず、プールが今年も運営できたということは大変いいことだと思っております。それは、担当課の御努力によるものだなというふうに心から感謝申し上げるものであります。それと、そのウオータースライダーのことなんですが、市としてはこれからも——例えば、壊れたから撤去するのか、それともできれば復活して残していきたいのか、どちらかというのを伺いたいと思います。

◎議長（工藤和行） 建設部長。

◎建設部長（小山内和徳） 現在、第2期黒石運動公園長寿命化計画の策定に向け、施設の点検による健全度調査等の作業を進めているところです。その中で、ウオータースライダーの設置についても検討してまいります。なので、今現在としてはまだ結論は出ていないということで御理解いただければと思います。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 分かりました。今の答弁を聞くと、できるだけウオータースライダーは残したいという思いは伝わってきました。当然、これも当市の市民プールの売りの一つでもあり

ますので、ぜひとも復活させていただきたいというふうに思います。

また、前回の定例会では長寿命化計画の話も出ておりました、長寿命化計画は今年度で第1期終了する予定だと記憶しているんですが、来年の2期計画に向けて今取り組んでいるという、そういった答弁でもあったかと思うんですが、2期計画を今立ててはいますけれども、当然優先順位というものがあると思います。そうなったときに、ウオーターライダーが、この先、計画に組み込んだ中で、何年先になっていくのか——先に直さなければいけないものも多々あると思っていますので、その辺りの部分については、ちょっとどのような考えになっているのでしょうか。

◎議長（工藤和行） 建設部長。

◎建設部長（小山内和徳） 設置をしていくかということがまだ決まっていないのでお答えしにくいところがあるのですが、通常、設置となれば、当然、既に撤去しているものなので、早い段階で設置は進めていく必要があると今の時点では考えております。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 分かりました。できるだけ復活させるということと、早期にそれがかなうことを祈っております。プールのほうはこれで終わりたいと思います。

次に、ねぶた祭りについてでありますけれども、アのほうは分かりました。参加団体数は総じてマイナス1台というような形になるかと思っておりました。アのほうは了解です。

次に、イのほうの再質問に入りますけれども、私のところにも、小屋が潰れて、その潰れた小屋がさらにねぶたの骨にまで影響して、破損して今年は使えない。よって、今年はお出陣できないという団体さんもおられます。その中には、もしかしたら来年もまた豪雪になる可能性があるかと、そういった中で、ぜひとも市で何かしらの——通常、補助金は出しているんですが、それとはまた別に、豪雪で被害を受けたものに対しての支援というものをぜひお願いしたいという強い要望を受けているんですが、その辺りについていま一度お願いしたいと思います。

◎議長（工藤和行） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田淳也） ねぶた小屋の被害についての支援ということではありますが、ねぶたの運行には小屋の管理費、本体の修繕費、ねぶた絵の製作費、子供たちへのおやつ代など、様々な経費がかかるものと承知しております。

市で各団体に交付している黒石市ねぶた製作運行奨励補助金は、それら一切の費用に対し支援したいという思いで交付しております。令和6年度の豪雪は、多方面に被害をもたらし、これまで経験したことのない規模での災害でしたが、ねぶた小屋の被害に対し、特別に補助金を追加で交付することは現状では考えておりません。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 今年の祭りが終われば、また会議等開かれるかと思えます。その中で、またそういった団体さんから要望の声も出るかと思えますので——現状では考えていないということではあるんですが、その辺りもぜひ今後の会議のテーマとして取り上げて話をしていたら大変ありがたいなというふうに思います。これは私も引き続き——次の冬のシーズンがどうなるか分からないので何とも言えませんが、また状況を見ながら取り上げていきたいと思えます。

次に、ウの今後についてです。

これは以前の議会でも提言させていただいたんですが、実現したかどうかは聞いてはおりませんが、聞いている感じだと、市とすれば受け身なような感じがするんですよ。主催者からは特に困った声は出ておりませんと、寄り添っていきます。確かに、ねふたの主催は青年会議所、よされは商工会議所ではあるんですが、やはり黒石の大事な祭りの一つということを考えて——先ほど壇上でも言いましたけれども、実際、台数もコロナ期間も含めた中で減っているという現状があります。ねふた祭りの将来はどうなるんだろうという声が増えてきている中で、やっぱり年に1回の祭りが終わった後の会議だけではなく、黒石からどうしろこうしろということではなくて、積極的に、今何か困っていることはないのか、どうしたら祭りを継続していけるのか、チーム黒石として、一つとなってそういうのは——よされもねふたもそうですけれども、将来の議論も含めて各関係団体との協議の場というのをぜひ積極的に設けてもらいたいというふうに考えているんですが、その辺はいかがでしょうか。

◎議長（工藤和行） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田淳也） 主催者との話合いの場ということではありますが、それについては常に設けております。毎年度、運行団体責任者会議においても担当者が出席しているほか、補助金の交付事務などを通して主催者である黒石青年会議所や各団体との方とのコミュニケーションは常に取っております。ですので、議員がおっしゃられるように、常にこちらが受け身ではなく、お話を聴く体制というところは常に取っているつもりでおります。

また、令和4年度のように、コロナ禍で参加台数が激減したことを受け、関係する団体の黒石市、黒石青年会議所、ねふた師乃会、正調黒石ねふたばやし保存会などが集まった意見交換を行ったこともございます。あのようにならぬ重大な災害の場合には、関係団体が集まって意見交換を行ったりしておりますので、必要な場合は、随時意見交換を行っていきたくて考えております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大）　そういう協議の場を設けているということではあるんですが、実際、議会で私がこれを取り上げているということは、周りから「実態とは違うんだよ」という話が出てくるから、こうやって議会で取り上げているわけなんです。

例えば、青年会議所も会員数が減少している中で、ねぶた祭りの運営自体が厳しくなっているという声も聞きます。要するに、危機感の話になるんですが、青年会議所が——前も言ったんですけども、ねぶた祭り自体を手放してしまったときにどうするのかという。そうなるから考えるのでは私は遅いと思っていて、そういう可能性ももしかしたらあるんじゃないかという危機感を共有しながら、将来に祭りを残していくという歩み寄り方をぜひしていただきたいという意味での協議ということでした。やっているというのは分かるんですけども、何のためにやるのか、それを何につなげていくのが重要だということをもまず申し上げておきます。

その上で、ぜひ市長にもお伺いしたいんですが、正直、ねぶたの台数も減少していて厳しいというのは市長も十分承知していることだと思います。さらに、豪雪というものも加わって今年はマイナス1台——私は黒石に生まれた人間として、ねぶたは絶対になくしたくないという思いです。これからも自分の子供たちにもつなげていきたいし、自分の孫の代にもつなげていきたいという思いの中で、どうしたらこの祭りを残していけるのか、本当に維持していけるのかという部分も含めて、ぜひ市長の御見解をお伺いしたいと思います。

◎議長（工藤和行）　市長。

◎市長（高樋憲）　黒石ねぶた祭りは、今の形態を確立したのは、黒石青年会議所が作り上げた祭りであります。その前までは、子供たちの夏場の小遣い稼ぎとか、あるいは町内単位でのコミュニティーの一環という流れでもあったんだと思っています。

ですので、この黒石ねぶた祭りを今後どのような形態でやっていくのかということは、まずは青年会議所さんが作り上げてきた黒石ねぶた祭りの歴史というものを、今後、青年会議所さんがどのように考えていくのかということをもまず私は大切にしたい。

あわせて、黒石でねぶた祭りというものが、議員も指摘しているように、なぜ必要なのか。根本的には地域コミュニティーなんですね。地域コミュニティーを維持させるためには何が必要なのか。ねぶたも必要ですけども、ねぶただけが地域コミュニティーではありません。ですので、我々が来年度から取り組みます地区センターもそうありますし、地域の活動というものをさらに充実させていくことにおいて、黒石ねぶた祭りに対する地域での取り組み方も議論されていく話ですので、黒石ねぶた祭りを守り育てていく——それは当然黒石市の宝でありますから、我々も当然大切にしたいと考えていますが、そのことについては、まずは青年会議所さんの考え方というものを最優先に我々は考えながらも、地域コミュニティーという部分で

ねぶたを考えたときには、今後、各地区協議会あるいは町内会等々の意見交換等も踏まえた上で、地域コミュニティーの在り方というものをしっかり議論した上で、ねぶたというものを考えるべきではないかなというふうに私自身は思っています。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 私も市長と全く同じ考えであります。

私、先日、大変ありがたくも表彰を頂きましたが、10年前の初当選のときにねぶたの質問をしたときは、「ねぶたはもっと観光化するべきだ。市を上げて観光化していくべきだ。盛り上げるべきだ」という考えでした。ただ、今、自分で子供ができて子育てしている立場で考えると、観光化よりも地域コミュニティーでねぶたを運営していくよさというものをすごく実感できるようになりました。そういった面では、市長がおっしゃっていることは、私もそのとおりだなとは思っています。

一方で、先ほど部長とも議論しているとおり、であれば、どう残していくかということが大事で、地域コミュニティーとしての在り方と運営していく側との考え方というか、思いのずれというものもあるでしょうし、そういったものを埋めるためにもぜひ黒石から——何度も言いますがけれども、ああしろ、こうしろではなくて、一緒に考えていきましょう、一緒に残していきましょうという部分のさらなる取組を期待したいと思うわけでありまして、そこはちょっと提言させていただきまして、何とか頑張っていただければというふうに思います。

次に、中学校部活動の地域移行についてであります。

私もこれを質問するに当たって、いろいろ勉強させていただいたんですけども、地域移行については全国で大変混乱しております。例えば、神戸市の事例でいきますと、神戸市は来年度から部活動は全廃止になるそうであります。完全に地域に移行してしまう。地域移行の考え方には、その地域のクラブに全部移行してしまうものと、学校の部活動に、先ほど答弁にありました指導員を派遣して部活動を残していくものと、2パターンでやっているということが示されているんですけども、当市は部活を残すということだろうなということで理解はしました。一方で、なぜこれが進められているのかという根本に立ち返ると、これは教職員の方の多忙化を解消するためにそもそも始まったものだと思っております。最近、ユーチューブでこの手の動画が上がっているのですが、本当に先生方が大変な状況というのは変わっていません。それを解消するためのものであるというふうなもの理解でいたときに、黒石ではその教職員の多忙化解消につながっているのかどうかという部分に関しては、もしくはこれからつながっていくのか、その辺のお考えというのはどうでしょうか。

◎議長（工藤和行） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長（小山内徹） 中学校部活動の地域移行の取組が先生方の多忙化解消につながっているのかという点についてお答えいたします。

今、始まりましたこの合同部活動等につきましては、それぞれの中学校の部活動が1か所に集まって練習することによって複数の顧問の先生方で指導することになり、精神的また時間的な余裕が生まれて負担軽減につながっております。

また、専門的な技術を教える部活動指導員を配置するということによって、指導経験のない部活動の顧問にとっては、これも精神的負担の軽減が見込まれます。さらに、部活動指導員については、顧問の代わりに日常の練習を指導したり、あるいは休日に行われる大会の引率をしたりすることもできるため、先生方の勤務時間削減による多忙化解消が期待できるところです。

以上となります。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 分かりました。今までは外部コーチという形で、本当に少し交通費というような形で支給されていたということも聞いておりました。そういった中で、部活動指導員の具体的な職務と勤務時間、報酬等の処遇についてというのはどのようになるのでしょうか。

◎議長（工藤和行） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長（小山内徹） 部活動指導員の職務や報酬等についてお答えいたします。

部活動指導員は、学校教育法施行規則第78条の2に規定されており、高等学校や中学校等において校長の監督を受け、部活動の技術指導や大会への引率等を行うことを職務とする非常勤の会計年度任用職員となっております。

部活動指導員への報酬ですが、国の補助金制度を活用しておりまして、国・県・市がそれぞれ3分の1ずつ負担することになっております。報酬額は、部活動指導員1人につき1時間当たり1600円、年間33万6000円で、合計210時間の勤務時間となっております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） ちょっと聞いているとすごいなという、もらうほうからすればありがたいなという部分はあるんですけども、一方で、どの競技でも指導できる方で——当然ふだんは仕事を持っているわけなんですよね。そうすると、その仕事をしつつ、指導員というダブルで掛け持ちできるのか、できないのかという——お勤め先の会社の都合もあるでしょうし、それはサイドビジネス的なものになるから駄目だと言われてしまう会社もあるのかなという心配もあります。そういった中でも、しっかり指導員というものを——まだ全然これからだとは思いますが、探すのは大変かと思いますが、ぜひそこはしっかり状況を見ながら進めてい

ただきたいなとは思っております。もうちょっと聞きたい部分もあるんですが、時間もないので次に行きます。

次に、今後の学校と地域クラブ、教育委員会の連携というものが私は一番重要だと思っております。今後、部活動で活動する生徒はもちろん——黒石の方針とすれば部活動を重視となったのですが、それに先駆けて既にクラブチームに所属して、クラブチームとして中体連の大会に出ているクラブも実際あるんです。そういった競技も。既に地域クラブへ加入して活動している生徒へも大会参加や日頃の活動に係る金銭的な負担というものも——少しでも軽減できるよう費用助成を含む行政からの支援というものを積極的に行ってもらいたいと思っております。ですけども、教育委員会の考え方としてはどのようになっていきますでしょうか。

◎議長（工藤和行） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長（小山内徹） 今後の学校と地域クラブ、そして教育委員会との連携についてお答えいたします。

部活動や地域クラブに所属する生徒に対する支援といたしましては、いずれも東北大会以上の大会に出場する際に、教育委員会がその経費の一部を助成しております。また、公益財団法人黒石市民財団においても、生徒を含む市民に対し、全国大会等の出場に係る経費の一部を助成する制度を設けており、生徒及び保護者には自身の所属先に応じて助成制度を活用していただいております。

また、今後、開催される黒石市立学校部活動の地域移行に関する検討会で話題としていくほか、学校部活動の地域移行に関しては、国が進めている施策でありますことから、生徒及び保護者の負担軽減策については、今後、都市教育長協議会や市町村教育長連絡協議会を通して、また国・県に要望してまいりたいと思います。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） ありがとうございます。全てこれからのことになろうかと思っておりますけれども——何度も申し上げますけれども、部活に所属している子と、一方でクラブに所属している子、例えば通っている学校は同じ中郷中学校、黒石中学校のどちらかですけれども、それぞれに、部活だからクラブだからで、そういう支援の部分がどちらかに偏るといえるのか、クラブに入っているからもらえないということが——不公平感がないように、ぜひとも取り組んでいただきたいと思っております。これは、今回では何とも議論できない部分でありまして、引き続き、私も様子を見ながら質問させていただきたいと思っております。

次に、黒石病院についての再質問に移っていきますけれども、最初の答弁で、近隣市町村の利用状況をお知らせいただきました。今後の利用状況の推移については、病院側としてはどの

ようにお考えになっているのでしょうか。

◎議長（工藤和行） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（山口俊英） 今後の利用状況の推移についてであります。

近隣市町村の黒石病院の利用状況について、令和2年度から令和6年度までの5か年平均値でお答えいたしました。この間、市町村別の利用者の割合については大きな変動は見られず、比較的安定した傾向を示しております。

また、今後の見通しといたしましては、本市を含む近隣市町村において、高齢化がより一層進行していくことに伴い、慢性疾患や通院頻度の高い患者の増加が見込まれます。開業医の減少等、医療資源が限られているこの地域においては、引き続き黒石病院への依存度が高い状態が続くものと考えております。

こうした状況を踏まえますと、近隣市町村からの利用者数は、今後も大きく減少することなく一定の水準を維持するものと見込んでおります。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 近隣市町村の病院利用の部分に関連して1点お聞きしたいんですけども、現状において、近隣市町村から病院維持に関する負担金のようなものが出ているかと思うんですが、いま一度お知らせいただきたいと思っております。

◎議長（工藤和行） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（山口俊英） 現状において、近隣市町村からの病院維持に関する負担金のようなものがあるのかという点についてお答えします。

現在、黒石病院として近隣市町村から直接的な負担金や運営費の支援を受けている実績はございません。ただし、救急医療体制の確保という観点から、夜間や休日を含む時間外救急診療の維持に係る負担軽減のため、毎年度、市から時間外救急維持事業費補助金の交付を受けております。なお、令和7年度の交付見込額として2301万4000円を当初予算に計上しております。この時間外救急維持事業費補助金は、近隣市町村から市に利用実績に基づき負担した金額となっております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 私も予算書で確認したんですけども、これの構成市町村をお聞きしたいんですけども、部署が違いますので、通告外になってしまうのでそこはやめておきます。

次に、イのほうに移っていきますけれども、十和田市の市外居住者の入院個室使用料の新料金による1年間の増収分というのは、新聞報道等によると130万円ほどだということであるん

ですけれども、当市の状況に置き換えた場合——この間、当市でも病床数の削減も行ったばかりなんです、取りあえず参考までにお聞きしたいんですけれども、当市で試算した場合は幾らぐらいになるのでしょうか。

◎議長（工藤和行） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（山口俊英） 当市で試算した場合の内容についてお答えいたします。

令和6年度における室料差額の収益実績額により、入院患者に占める市外在住者の割合を39.6%としまして、市外患者に対する個室料金を十和田市立中央病院と同じ1.4倍で試算した場合は、年間で約120万円から約170万円となり、理論上の増収効果としましては50万円程度の増額となる見込みであります。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 分かりました。個室使用料以外にも利用料金で見直しができそうだなというふうに考えられるもの、そういった取組はあるもののでしょうか。

◎議長（工藤和行） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（山口俊英） 個室料金以外で考えられる取組についてお答えいたします。

保険診療に係る医療費は、公的医療保険制度に基づき全国一律の診療報酬により決まっているため、制度上、居住地によって差を設けることはできません。一方で、保険診療外となる人間ドックなど、各病院が独自に設定している自費健診については、病院の方針として居住地による差を設けることは可能であると考えます。

しかしながら、人間ドックをはじめとする健診をきっかけに受診に至る市外患者の中には、その後の検査及び継続治療のほか、入院につながるケースも少なくないため、料金の見直しにより市外患者が減少するリスクについても十分に留意した上で検討を進める必要があるものと考えております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 十和田市の場合は——これの取組は130万円なんです、これを含み全体的な経営改善計画で出した金額が約1億8000万円というふうな金額だそうです。それを差っ引いたとしても、赤字解消にはなかなかつながらないという現状もあるそうで、これは自治体病院の宿命であって、黒字を出している病院というのはなかなかないというふうな理解ではあるんですけれども、どんな小さいことでも積み上げていけば大きいものになっていくと思います。さらなる改善計画を模索しながら頑張っていただきたいなというふうに思います。

最後は、ウについてでありますけれども、最初に近隣市町村の利用率をお知らせいただいて、

私も独自に調べたんですが——それこそ、人口の割合でいくと、平川市は2万8885人に対して大体その半分ぐらいの方たちが、これは外来患者の部分で申し上げますけれども、約半分ですね。お隣の田舎館村ですと、もう8割を超えています。そして青森市の場合、これは青森市というよりも浪岡のほうの地区なのかなというふうに勝手に解釈して、それに当てはめていくと、浪岡ですと人口1万7128人、それでも半分以上、6割を超える利用者がいるということを考えますと、やはり黒石病院は地域医療を担う大変重要な病院であるということが改めて認識できるわけでありまして。

そういった流れの中で、ここ何回かこの病院の質問をさせていただいて、やり取りは市長ともさせていただいているんですけども、将来に黒石病院を残すという観点で、今後の事務組合化へ向けて——例えば、県・国に要望活動とか、つながりを持って行うことというのも大変重要だとは思いますが、一方で、高樋市長、御自身が近隣各市町村長と直接、今後の地域医療であるとか、事務組合方式による新病院の建設とか具体的に踏み込んだものも含めて理解と協力を求める活動というものも、ぜひ積極的に行っていただきたいなというふうに考えておりました。やはり県も国もやはりそういう部分、黒石がどれだけ努力したか、頑張っているかというところは見るとだと思います。その上で、やはり支援の手を、救いの手を差し伸べる部分もあろうかと思うんですが、その辺について、ぜひ市長からお考えお伺いしたいと思います。

◎議長（工藤和行） 市長。

◎市長（高樋憲） 地域医療に関しましては、各自治体おのおのが独自の考え方を持っているように私は見受けられます。そういう状況の中で、当市が県の地域医療構想の位置づけの中で、黒石病院が救急を担う。結局、救急を担うためには日々の医療活動の体制がしっかり整わなければ、それができないというこの現実を考えたときに、当然、黒石のみならず、黒石独自で黒石病院を維持するという考えではなく、弘前圏域を入れて、地域全体として、黒石病院を存続していくという考えは当然あるべきだというふうに認識していました。

ただしかし、これを取りまとめていただけるのは、今、一つの事例で出ております青森県立病院と青森市民病院が統合する際に、推進機構となる新たな組織を立ち上げ、これに対して県と市が出資割合をしながら、病院の経営管理をしていくという方向で進められているようですが、この考え方を全県に広めるべきだというふうに私は考えておりました。

ですので、黒石市が独自で近隣市町村長の方々にいろいろな意見交換をするのは、それは当然あってしかるべきだと思いますけれども、それ以前に、やはり県がリーダーシップを取って各圏域の医療をどういうふうに守っていくのか、そして経営的な部分でどういうふうに組織をつくり上げ、医療を維持していくのか。それはやはり県がもっとリーダーシップを取った取組をしなければいけない時期に来ているのではないかなというふうに私自身考えています。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 分かりました。これは引き続き、私も次の議会でまた議論していきたいと考えておりますけれども、動向を見ながら……時間もないので次に進みたいと思います。

次に、ローソン黒石角田店付近交差点への信号機設置についてということで、要望書はもう既に提出されたということは理解しました。ただですね、これは本当に交差点が供用開始する前から——先ほどの答弁では供用開始前に、6回も警察のほうには行っているんだけど、つかなかったという事実があって、市としても大変危険な交差点であるという認識は持っているらっしゃると思うんですね。

そういった中で、今回、直接要望書を持って行って、警察側の反応というか——早くつけてもらえそうだとか、そういった部分というのは何か感じてきたものというものはあるのでしょうか。参考までにお伺いします。

◎議長（工藤和行） 建設部長。

◎建設部長（小山内和徳） 現在のところ、正式な回答文書はまだないのですが、要望書を提出したときの話では、前向きに検討していただけるような雰囲気でありましたので、何とか早い段階でつけていただければなと思っております。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 本当にそれは望むところでありましてけれども、やはり私もふだん議員活動をしていて、ここに横断歩道をつけてほしい、信号機をつけてほしいという要望を多々頂きます。やっぱりそこは、要望先が市ではなく警察というのもあって、実際なかなか実現できません。これは警察のほうでもいろいろ決まり等があるんだと思うんですが、そうなってきた場合、要望するにしても、市から要望する熱量というか、どれだけ本気で、ここは危ないから信号機早くつけてほしいという、そういう思いというのは警察側も要望を受ける側もしっかり見るわけであります。当然、このこと以外にも、要望書を出すときは何かしらのデータをつけて要望書を出すわけなんですけれども、例えば当市において、要望書を提出するに当たってあそこの交差点はどれぐらい危険だというようなものをしっかり示す交通量なども含めたデータであったり、そういうふうな調査というのは、事前に行われているものでしょうか。

◎議長（工藤和行） 建設部長。

◎建設部長（小山内和徳） 市としては、信号機設置を目的とした交差点単体の調査は正直なところ実施しておりませんが、令和6年度に路線として供用開始前の交通量調査を実施しております。路線としては5か所ほど実施しておりまして、その中にローソン黒石角田店付近交差点の交通量も実施いたしました。

ただ、これはあくまで供用開始前のデータでありまして、今後、供用開始後に関しては、道

路が開通したんだという認知度がもう少し上がった時点で、整備後の事後評価と併せて、国道102号までの延伸も含めた形の基礎データとしての調査は今後実施していく予定にはしております。現在のところでは、このような状態でございます。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） これはですね、市のほうにも要望というものが来ているのかどうかはちょっと分かりませんが、私のところにはすごい件数が来ています。しかも供用前からです。実際、供用開始になりました。その月の11日に事故が起こっている。そのときは亡くなられる方がいなかったというのは、不幸中の幸いでありましたけれども、何が一番問題かというのは、やっぱり通学路になっているということなんです。あそこはやはり、調査してもらえば分かりますけれども、大型トラックも通りますし、山形砕石のほうから来るトラックも結構来んです。また、スピードを緩めずにがんがん飛ばしている車も多い。それを見ているので、私も毎日通っているんですけども、本当に危険な箇所だなと。

市民感情から言わせていただきますと、あそこの交差点を造るのだから当然、黒石市の市民の税金が投入されている。その安全確保自体も当然、市の義務であり——警察もそうですけれども、そういった中で、要望書を出す前には、きちんと調査したデータなどを添付して、市もどれだけ危険なのか、どれだけ交通量があるのかというのは、把握しておいてしかるべきだというふうに御指摘をさせていただきます。

いずれにしても、今回要望したからといって今年つくかどうかは分からない。来年つくかどうかはまだ分からない。これは何年かかるか分からない。この間に、死亡事故とか大きい事故が発生するということが一番恐怖に感じているところではあるんですけども——例えば3年だったら3年つかなかったら、この間の交差点の安全確保の部分の考えというのは、市としてはどのようにお考えになっていますか。

◎議長（工藤和行） 建設部長。

◎建設部長（小山内和徳） 要望書に関しましては、あくまで設置していただけるまで毎年度提出する予定としております。当然、市としては黒石警察署との協議ででき得ることということで——先ほども申し上げましたが、一時停止のカラー舗装の設置とか、一時停止の注意喚起の看板設置とかもしております。もしもこれで、今やった部分で足りないものがあれば、信号機を設置するまでの間に、さらに注意喚起の看板とかを増設するとかというのは、今後検討していきたいと思っております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） また要望書を出すという取組を行うというのは分かりました。もし、早期

に設置がなかった場合、じゃあまた来年も出しますという状況になった場合には、ぜひそれに向けて安全対策もそうでありまして、調査もぜひ進めていただきたいと思っております。本当に何か起こってからでは遅いので、あそこで命が失われてしまったとなれば、市民の方もそうですし、あそこを造った市としても責任があるわけでありまして、ぜひそこはお願いしたいというふうに思います。ここもまた引き続き質問していきたいと思っております。

それでは最後に、農林被害についてですけれども1点だけ。

先般、当市において県から来たものかと思うんですけれども、高密度植栽培普及の勉強会が開かれたというふうに聞いておりました。30名ほど参加されたということなんですが、やはり高密度植は積雪に強いという部分もあって、今ちょっと注目されている部分ではあるんですが、当市においても豪雪対策の一環として、将来へ向けて高密度植栽培というものは推進していく方向でお考えになっているのか、ちょっとその辺りをお聞かせいただければと思います。

◎議長（工藤和行） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 高密度植栽培につきましては、雪害に強い傾向が確認されてございます。ただ、取り組むためには経費の部分や地域性、農家個人の経営方針や状況などが様々影響してございます。

現在、市としては有効な栽培方法の一つであると考えているところでございます。ただ、取り組むことにつきましては、農家個人の判断によるものと思っております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 9番三上廣大議員。

◎9番（三上廣大） 最後になりますけれども、10アール当たり、たしか250万円ほどかかるというふうに報道では見たんですが、経費の部分もかかるんですが、県としてはそれを進めていきたいというような部分も聞こえてきていますので、市としても積極的に取り組んでいただいて、費用の面も含めて、県といろいろ補助の部分も含め話をさせていただければありがたいなというふうに思っておりました。

私の質問は以上です。

◎議長（工藤和行） 以上で、9番三上廣大議員の一般質問を終わります。

◎議長（工藤和行） 暫時休憩いたします。

午前11時01分 休 憩

午前11時10分 開 議

◎議長（工藤和行） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、3番成田浩基議員の質問を許します。3番成田浩基議員。

登壇

◎3番（成田浩基） 市民の皆様、そして議場の皆様、おはようございます。黒石茶話会の成田浩基です。今定例会も黒石市発展に尽くし、私なりの施策を提案し市政をただしてまいりたいと思います。

今年の規格外の豪雪災害により、黒石市もりんごをはじめとする多くの果樹園に災害が及び、今後の園地経営に不安が募っています。また、稲作においても、ビニールハウスの倒壊や田植えに遅れが生じるなど、少なからぬ影響が出ています。我が黒石市の基幹産業は農業であり、とりわけ米とりんごにおける比重が大きく、市として、国・県と連携しながらスピード感を持って適切な御対応をしていただきますよう改めまして願うものであります。

また、それ以外の一般の家屋等への被害や、先日新聞にも載りましたが、第二分団消防部屯所解体など、残念な事態についても同じく、一刻も早い対応と御回復を祈念申し上げる次第です。

さて、SNSを中心としたニューメディアに、テレビ、新聞を中心とするオールドメディアも巻き込んだ国政に関する話題や国会中継、今夏を予定する参議院議員選挙への投票を呼びかける報道が過熱しています。国内では、米不足に関するニュースが話題をさらい、国際情勢では、対アメリカ、対中国などとの外交に関する問題や、移民や留学生などによる治安の悪化、税金で賄われている国民健康保険、高額療養費や生活保護費、そして奨学金の外国人への給付問題など、課題が次々とあらわになってきています。

依然として停滞し続けている経済成長、30年にも及ぶと言われている不況、その結果、今、日本国の相対的貧困率は15.7%であり、日本人の約6人に1人が貧困状態にあります。政府はプライマリーバランスの赤字を理由に、貧困や少子化対策には目もくれず、一方で、外国や外国人に私たちの税金を湯水のごとく使っています。ほかに消費減税やガソリン暫定税率廃止、いわゆる103万円の壁解消も棚に上げ、国と国民の弱体化を狙っているがごとくの政策には、多くの国民が辟易としているということが伝えられています。

私たちは、地方にあってこのような国政に関して直接的には無力です。しかし、決して手をこまねいているのではなく、常日頃から情報を収集し、その情報の発信、市民の皆さんへのアピールを続け、加えて、市政の発展に向けた努力を怠ることのないよう努めてまいりたいと思っています。

7月に予定されている第27回参議院議員通常選挙には、ぜひ全国の有権者、全ての黒石市民有権者の皆さんが力強く投票し、そしてこの日本国が本来の力を取り戻すとともに、この黒石市が力強く発展していくことに、私は市民の皆さんと共に力を携え、邁進していくものであり

ます。

それでは、市議会議員となって3年目、通告に従い質問をさせていただきます。

まず1番目は、(仮称)黒石市立子ども美術館について。

アといたしまして、地域共創エリアの活用について。

イ、郷土館エリアの創設について。

ウ、黒石市学習適応指導教室の実施について。

エ、運営費用の試算についてです。

まず、この問題の背景として、(仮称)黒石市立子ども美術館基本計画によりますと、施設に求められる機能やサービスを提供するために必要となる構成要素別に、展示公開エリアや教育エリアというふうには、館内が幾つかのエリアに区切られています。その中に地域共創エリアというところがあり、20室ほどの教室がそのまま手つかずで残されているエリアがあります。ここがどういう使われ方をするのかといいますと、「市民や利用者とともに造り育てていくエリア」とのことで、具体的に市が想定しているのは、店舗やコワーキングスペース、オープンアトリエ等に貸し出すテナントスペース、それから動画撮影や音声収録、編集作業等を目的としたスタジオスペース、そして会議や打合せ等に対応できる多目的スペースと幅広く使えるところとなっているようです。

これらを踏まえまして質問です。アの地域共創エリアの活用について。

この手つかずの教室の一つに、椅子と机など教室アイテムを元に戻し、コスプレイヤーに貸し出す教室スペースとできないでしょうか。

この話は、松の湯交流館の今井館長からの情報で、今、黒石市はコスプレイヤーにとって、とてもホットで人気のある町とのこと。特に人気スポットといえば、こみせ通り、桜満開の御幸公園蝦夷館、そして金平成園とのことで、和装コスプレイヤーを中心に非常に人気の高いスポットとなっているとのこと。毎年、100人単位の人たちが本市を訪れてくれていて、そのコスプレイヤーいわく、学校のシチュエーションは貴重で全国的にもなかなかないとのこと。黒石市にそういうところがあれば、ますます人気と需要が高まるというわけです。

たかだかコスプレイヤーと言うなかれ、彼らのネットワークは強固で巨大であり、バズれば一声で100人、やもすれば1000人単位の人が集まり、その経済効果は計り知れないと思います。何とんでも宣伝効果は絶大で、こちらが事を起こさずとも彼ら独自のSNSのネットワークは海外にまで及び、インバウンド効果に伸び悩む本市もその効果にあずかれるものと思われま。改装費用もランニングコストもほとんどかからない上に、相乗的集客効果さえも望めるこの提案についてお考えをお聞かせください。

イの郷土館エリアの創設について。

本市には図書館ができ、美術館もできますが、郷土館がありません。先般、私たち1人会派3人は香川県善通寺市を視察し、この3つの施設を視察することができました。この行政視察を踏まえ、ぜひ地域共創エリアの空き教室を利用し、郷土館エリアを創設していただきたいという考えに至りました。

本市は、これまで事あるごとに歴史と文化を強調してきました。黒石市民憲章の一節にも「歴史をあたため、かおり高い文化を築く 学びあうまちをつくります」とあります。しかしながら、市内にそれを具現化してある場所がありません。

また、よされやねふた祭りなど、すばらしい祭り、伝承文化があるにもかかわらず、その開催されている時期にしか触れることができず、観光に訪れた方々を失望させることも決して僅かではないのではないのでしょうか。

この2つの問題を一気に解決するのがこの郷土館エリアの提案です。

具体的には、市が保有しながら、市民や観光客の皆さんの目に触れることのない貴重な歴史的文化的遺産がたくさんあります。例えば、縄文時代の土器などの多くの黒石発掘の埋蔵文化財。例えば、慶長19年——1614年頃ですが、津軽に配流されたとされる花山院忠長公のものと言われる釣りざお。例えば、広く市民の皆さんの寄附によって集められた古い農機具など、多くの貴重な歴史的文化的遺産が日の目を見ることなく、ただ倉庫にしまわれています。

まだまだあります。例えば、こみせ通りについての紹介スペース、本市が内外に誇るこみせ文化にもかかわらず、松の湯交流館にさえそれを紹介するところがありません。これは、市職員OBで文化課長を歴任された方が、強く憂いておられたことを付け加えておきます。

そして、本市の誇る夏祭りであるねふたとよされ、夏に爆発するエネルギーをそのままに、内外の方たちに年間を通じて紹介する場が必要ではないかと考えますが、お考えをお聞かせください。

ウといたしまして、黒石市学習適応指導教室の実施について。

黒石市学習適応指導教室をこの子ども美術館でも行ってみたいという提案です。

学校で受ける図工の授業と全く違うアートとの触れ合い、評価や成績を気にすることなく自由に感性の赴くままに描く、造る、触れることによって、そこに通う子供たちが抱える問題から解放されていくという効果は、既に実績が認められていることだと思います。

もちろん子供によっては、得手不得手、合う、合わないはあると思いますが、せっかく子ども美術館ができるので、実施する場所、教室もあることですから、定期的に行うなど、今後考えてみてはいかがでしょうか。

エといたしまして、運営費用の試算についてです。

私が令和5年9月、第3回定例会での一般質問において、このことについてただしたわけで

すが、当時は答弁として時期尚早とのことでした。このたび、基本計画、そして実施設計も完成しているということですから、まず、イニシャルコストの金額、ランニングコストの想定額と、入場料を徴するのであれば幾らと想定しているのかをお知らせください。

次に、美術館学芸員を配置するのか否かを含め、運営スタッフの内訳と人数——内訳というのは、正職員とその他の職員ということについてもお知らせください。

2番目、黒石運動公園陸上競技場についてであります。

アといたしまして、利用状況について。

イといたしまして、修繕と今後の有効活用について。

この問題の背景として、黒石市民になじみの深い黒石運動公園は、昭和57年度に野球場とテニスコート、昭和60年度に陸上競技場と弓道場、平成元年度にプールなどを開設してきました。以来、約45年の長きにわたって、東北大会や県大会などの本格的な競技大会開催のほか、朝野球、早朝テニス教室、各スポーツ団体による大会を開催。その他、グラウンドゴルフ、ペタンク、ターゲットバードゴルフなど、軽スポーツを通じて利用者の増加を図り、私たち市民の生涯スポーツの普及と健康増進に寄与してきました。

今回は、その中の陸上競技場にスポットを当てて、市運営側の考えをただしてみたいと思います。

質問です。アの利用状況について。

これまでの利用状況について、陸上競技場のほか、フィールドで行われるサッカー、ラグビーといった球技競技も含めた大会の開催、練習利用や市民運動会などのイベント利用などを含めた利用状況を過去に遡及して、分かる範囲でいいのでお知らせください。

イ、今後の有効活用と修繕について。

私は、陸上競技場を目視できるところに住まい、通勤でも42年間ほぼ毎日陸上競技場のすぐ脇の道路を通ってきた者として言わせていただきますが、陸上競技場が利用されているのを見た記憶が少ししかありません。施設ができた当初は、小学校の陸上競技大会などが開かれていた記憶はありますが、とりわけこの10年で言えば、市民運動会のほかは、少年サッカークラブの練習ぐらいしか思い出せません。もちろん私の知り得ない利用もあったかもしれませんが、そんな状況を非常にもったいないと感じてきました。

そこで、陸上競技場の有効活用として、思い切って市民に無料開放してはどうでしょうか。陸上競技場でできるものといえば、まず走ることが思い浮かびますが、ジョギングやウォーキングが挙げられます。フィールド内は、グラウンドゴルフなどの競技種目のほか、公園として市民憩いの場として開放してもいいのではないかと思います。いわゆるスポカルイン黒石やスポーツ交流センターのアリーナの個人利用と同じようなやり方の無料版をしてはどうかという

ことです。

これにより、黒石市が黒石市教育大綱で提唱している「一市民スポーツの推進」にも沿いますし、市民の健康促進にも大いに寄与することと思います。しかしながら、施設の利用促進において一つ気になることがあります。それは施設の老朽化が激しいことが挙げられます。施設内の柵などはさびや腐食が進んでおり、特にバックスタンド付近の柵は雪の重みによるものと推察しますが、数年前から傾いた状態をロープで応急処置して固定したまま放置されています。腐食している柵とともに非常に見栄えが良くないですし、何より危険な状態だと思えます。これらの修繕と活用について提案し、市の考え方をお聞かせいただきたいと思えます。

以上、私の壇上からの質問とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（工藤和行） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 成田浩基議員にお答えいたします。私からは、（仮称）黒石市立子ども美術館についての郷土館エリアの創設について答弁させていただきます。

（仮称）黒石市立子ども美術館において、郷土に関するエリアを個別に設ける予定はございませんが、今後、運営の中で需要があった場合は、エリアの創設について可能性を検討してまいります。

また、当該施設では歴史・文化の継承が重要であるという考えの下、後世に残すべき歴史・文化に関する講座や市が所有する縄文時代の土器などを活用した企画展開催のほか、よされやねふたなど地域に伝わる伝統文化を題材とした体験活動の実施を想定いたしており、これらの活動を通じて、市民が生まれ育った郷土への誇りと愛着を持つことができる場を創出してまいります。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降壇

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 私からは、（仮称）黒石市立子ども美術館について3点、運動公園の陸上競技場について2点お答えいたします。

まず、地域共創エリアの活用についてでございます。

（仮称）黒石市立子ども美術館においては、建物の北棟に教室の内観を既存のまま残す地域共創ラボと称した部屋を2部屋配置することとしてございます。地域共創ラボは、用途を限定せずに誰でも自由に使用することができ、撮影を目的とした利用やワークショップのほか、地域コミュニティ活動など多様なニーズに対応することができるスペースとしていることから、

多くの方に利用していただきたいと考えてございます。

次に、黒石市学習適応指導教室の実施についてお答えをいたします。

(仮称)黒石市立子ども美術館は、多様な人が活躍できる場として、全ての方が安心して利用することができる施設を目指しております。単に完成した作品を見ていただくだけではなく、学校の授業や様々な活動において利用できる教育施設にすることとしてございます。

学習適応指導教室における活動の一環としまして当該施設を利用することにつきましては、創作活動での利用や実施を予定しているソフト事業への参加の可能性を検証してまいります。

次に、運営費用の試算についてでございます。

運営費用等の算出につきましては、現在、維持管理費の抑制を目指し、運営形態や利用料、事業計画などについて検討しており、本年10月を目途に算出が完了する見込みとしてございます。

また、学芸員を含む職員の配置方針につきましては、事業計画とともに検討することとしておりますが、当該施設では様々な活動が想定されることから、非常勤や業務委託など配置人数も含めて、分野ごとに専門性のある人材を登用できるように、今後、調整してまいります。

続きまして、黒石運動公園陸上競技場につきましての利用状況です。過去3年間でお答えしたいと思えます。

利用状況につきましては、令和4年度が69件、6080人、令和5年度が58件、4184人、令和6年度が73件、4072人となっております。

主な利用目的と利用団体ですが、黒石市民運動会、黒石東小学校運動会など行事での利用のほか、市内中学校の部活動やクラブチームの練習、試合での利用となっております。

次に、修繕と今後の有効活用についてお答えいたします。

黒石運動公園陸上競技場を無料開放またはスポカルイン黒石など市内スポーツ施設のような個人利用の受入方で無料開放してはどうかという御質問かと思えますが、現在、陸上競技場入り口前の運動広場とテニスコートの隣の多目的芝生広場は、個人利用として既に無料開放してございます。その他、有料施設以外のエリアにつきましても、自由にウォーキング、ジョギングができる環境となっております。

また、陸上競技場ではフィールド内をサッカーやラグビーの練習場所などとして定期的に利用する団体もあり、不特定多数の方が自由に利用可能とした場合、利用者の安全管理と防犯対策のための人員の配置がさらに必要になることが想定されるため、今後も無料開放については考えてございません。

次に、御指摘のあった陸上競技場の柵でございます。

こちらについては、令和5年度に応急処置を実施しております。そのほかの修繕につきまし

ては、トイレの水漏れ補修や漏水修理などは随時実施してございますが、大規模な改修等につきましては、今後、改定する黒石運動公園長寿命化計画に沿って実施してまいります。

私からは以上です。

◎議長（工藤和行） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎議長（工藤和行） 再質問を許します。3番成田浩基議員。

◎3番（成田浩基） 答弁ありがとうございます。ちょっと順番を変えますが、今、部長さんから答弁していただきましたので、陸上競技場のことで聞きます。

過去3年間でいうと、人数並びに件数でいくと意外と使っているなというのが正直なところなんですけれども、日数というのを調べていたらお知らせください。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 件数と多分ほぼ同じかと思っています。

◎議長（工藤和行） 3番成田浩基議員。

◎3番（成田浩基） すみません、突然言っ。そうだろうなと思ったんですけれども、大体そのぐらいであると。であれば、非常にもったいないと。冬がありますのであれですけれども、もったいないなと思って——ただ使うからには、人件費であるとか手続であるとかスポーツ協会さんとのあれもあるんでしょうから、大変だというのは分かるんですけれども、答弁といたしましては、やるつもりはないというような言い切り方をされたんですけれども、やはりもったいないという気持ちは皆さんも持っていると思うんですね。ただ、使えば使うほど、逆に言えば赤字になるのかなというのがあるのかも分からないですけれども、そうではなくて、ずっと市が提唱してきた「一人一スポーツ」であるとか、健康増進であるとかそういったものに沿うものだと思いますので、今後の方針といたしまして、できないじゃなくて、できる可能性を探ってみるという考え方というものを持っていただけないかということをお願いしたいんですけれども、どうお考えでしょうか。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 先ほども答弁しましたが——例えば、トラックで砲丸投げとか練習しているときに、自由に人が行き来している場合、やっぱり安心・安全が第一かと思っておりますので、今のところは無料開放は考えてございません。

◎議長（工藤和行） 3番成田浩基議員。

◎3番（成田浩基） その辺は私も当然同じ考えですので、そういう貸出しがあるときは使えない。当然、スポカルインなどでも、例えばバドミントンであるとか、バスケットであるとか、そういった競技で使っているときは、その端っこで自由に使っていないかという、そうはなら

ないと思うんですね。そういうやり方もできると思うので、考えていただければなというふうに思います。

それから、答弁する部署が違うのかも分かりませんが、先ほど三上廣大議員のほうでもありましたけれども、長寿命化計画があるというところに私も期待を寄せたいと思います。本当に応急処置、大丈夫なんだべか、しかも何年も。私の記憶だけで言うと数年ですけども、令和5年からということのようなんですけれども、危ないですのでぜひ直していただければなということで、こちらのほうは終わりたいと思います。

(仮称)黒石市立子ども美術館のほうは、市長さんも非常に前向きな答弁をしていただけたのかなと私は感じております。大変ありがたいと思うんですけども、本当にこの地域共創エリアですね——私も計画図面を見たときに、非常にいいスペースがあるなということで、先ほども名前を出させていただきましたけれども、松の湯交流館の今井館長さんのほうから、「何とかならないものですかね」という話だったので、だったら美術館を使えるんじゃないのという話でとんとんと話が進みまして、事前に担当課さんにもお話をさせていただいたものをこうやって改めて一般質問としてさせていただいているんですけども、こういったところを本当に使うことで、美術館そのものの活性化というものが進んでいくと思いますので——現在、その施設の中の教室には、机や椅子などといったものはあるんですか。それとも、もう片づけられているのでしょうか。

◎議長(工藤和行) 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長(駒井俊也) ある程度は閉校のときに処分はしていますけれども、一部保管はしております。

◎議長(工藤和行) 3番成田浩基議員。

◎3番(成田浩基) であれば、対応も可能であるのかなというふうに思います。この件に関しては、情報を下さった方へ報告もしようと思っておりますので、いい方向で進めばなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

郷土館エリアの創設について、市長さんから答弁を頂きましたが、私が具体的に紹介したとおり非常にものがあります。こういったものを期間限定というものも大事なんでしょうけれども、例えばこみせであったり、農機具であったり、そういったものは常設したらいいのかなと。特に、こみせに関するもの、ねぶた、よさねに関するものは全く市内にないので、それは常設していただきたいと思うんですがいかがでしょうか。

◎議長(工藤和行) 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長(駒井俊也) 先ほど市長からの答弁もございましたが、スペースが限られているという言い方もあれですけども——常設するにはちょっとスペースが足りな

いかなと思っていましたので、スポットで随時展示する方向で考えております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 3番成田浩基議員。

◎3番（成田浩基） ホームページに公開されている基本設計の図面を見ますと、手つかずの教室が単純に数えれば20かそれ以上に——少なめに見て20教室あったように思います。スペースがないというのは、そのまま下がれないんですけれども、その辺はどうなんでしょうか。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 今定例会でたくさん御質問していただいておりますが、ある程度、場所をどういう使い方をするとかというのを検討委員会で決定いたしておりましたので、そういうことで先ほどの答弁ということであります。

◎議長（工藤和行） 3番成田浩基議員。

◎3番（成田浩基） 公開されている図面だと何も書いていないんですけれども、埋まっているという理解でよろしいですか。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 検討委員会の協議の中で用途を決定してございます。以上です。

◎議長（工藤和行） 3番成田浩基議員。

◎3番（成田浩基） 検討委員会の中ですので、決定ではないんでしょうけれども——私は物分かりいいことをしゃべられないので、教えられるのであれば、何が決まっているのか御紹介いただければと思いますが。

◎議長（工藤和行） 市長。

◎市長（高樋憲） 成田浩基議員がお話ししているエリアにつきましては、3階建ての校舎部分の2階、3階の部分の部屋だというふうに私は受け止めているんですが、そこはバリアフリーの観点から考えますと、利用を明確化した後にエレベーターを設置しなければいけないとか、そういうインフラ整備も当然出てくる話でありますので、今、現在構想の中で考えているのは、1階のエリア全体的な部分の話で、部屋数でいけば2階、3階を入れれば幾らでもあるんですが、それを今の計画の中では活用できる状況ではないということは御理解いただければと思います。

◎議長（工藤和行） 3番成田浩基議員。

◎3番（成田浩基） 分かりましたといいますか、そういう事情があると。図面の実施計画を見ただけでは理解ができなかったもので、もう少し私も聞き取りといったものを少しやっておけばよかったのかというふうには思います。

そうなのであれば致し方ないといえますか、今、私が言ったことも、もしよろしければ検討委員会の中で今後あるのであれば、テーブルの上に上げていただいて、今後に生かしていただければなと思っております。

そういうことなのであれば、私はあと言うことがなくなってしまうので、提言ということでさせていただきたいと思っておりますが、私たちは先ほど言いましたように行政視察を行ってきました。香川県善通寺市の美術館です。こちらの運営方法は基本的に常設展示を行っていないということで、うちとはちょっと違うんですけども、地元出身の漆芸作家大西忠夫氏の作品を常設展示するなど、年に1回、特別展などを行っているようです。美術館のメインイベントといたしましては、市民美術展や地元の香川県善通寺第一高等学校デザイン科による作品展示——うちにも黒石高等学校にデザイン科があると思いますけれども——ほかに、洋画や切り絵などの市民クラブによる作品展なども定期的に開催しており、入場料は無料で多くの市民でにぎわっているということです。

一方で、費用は施設の管理費程度しかかかっていない、館長などのスタッフもボランティアが担っているようです。ほかに、実習室では市民クラブにより陶芸教室などが行われているということなので、本市といたしましても、方向性という部分では違う部分はあると思うのですが、ローコストでありながら市民に寄り添い、まず何よりにぎわいがあるということをお学べきだと思います。

それから、適応指導教室の話をしましたけれども、市内には発達障害児のデイサービスセンターの子供たちもいます。この子供たちに積極的に開放してはどうかということも考えております。パブリックコメントで提案されている方もおられましたし、こちらもアートに触れる機会により、治療効果というものも実証されています。むしろ、市側からどうですかと積極的にアプローチされてはどうかと思います。

最後といえますか、秋田雨雀記念館です。

これも言っているのかどうか分からないですけども、現状の扱いを考えると、偉大な黒石市の先人の記念館としては、いささか寂しさを禁じ得ないものが現状だと思います。過去に一般質問で、この議場で話されたことでもありますし、せつかくの美術館ということですから、こちらの移設といったものも考えられてはどうかと思います。

以上を提言というふうにさせていただきますけれども、私の思いといたしましては、正直に申し上げまして、美術館の建設に反対する意見が実はまだまだあります。寄せられております。パブリックコメントにも反対意見が散見されておりました。そういう考え方の方、不安に思う方は、いまだ少なからずおられますので、それは理事者側としても謙虚に、そして重く受け止められているものだと思っております。

そして、私の立場ではもう決まったことと認識をして、今日このような質問をいたしましたけれども、そうであるならば新しくできるものを有効に使おう——使い倒してやろうという気持ちです。中途半端なものを造って閑古鳥を鳴かせるのではなく、常に人のにぎわう市民にとってよかった、観光客にとって楽しかったと言っただけの施設にしていくことが大切だと思います。もちろん、コストパフォーマンス、バランスも大事だと思いますが、お金をかけるべきところはかけるといった判断だと思います。

◎議長（工藤和行） 成田浩基議員に申し上げます。一問一答ですので……

◎3番（成田浩基） 提言です。提言に入っています。これは質問ではありません。最初から言っていますけれども、提言です。すみません。

私が提案したことに対し前向きな答弁もありましたけれども、すぐできること、それから部長も言いましたけれども、時間のかかることもあります。こういうことを見越して、地域共創エリアといういいものがありますので——市長さんが3階までになるとまた別な問題があると言いましたけれども、そのとおりだと思いますので、そちらを克服して美術館建築に否定的な御意見の方々への礼儀として、きちんと説明を果たし、いいものにしていきたいということで、私も市民の一人として見守って、そして協力できることはしてまいりたいと思うことを述べまして——これは提言ですので、述べさせていただいて質問を終わります。

以上です。

◎議長（工藤和行） 市長。

◎市長（高樋憲） （仮称）黒石市立子ども美術館は、私は一番は子供たちの教育の一環でもあり、市民の勉強する場でもあり、市民が交流する場でもあり、市民が憩える場所でもある。それを目指して検討委員会の方々とも意見交換をし、それを少しずつ、限られた予算の中でつくり上げていくということで、今、取り組ませていただいております。

2階、3階エリアにつきましては、今後、利用しながら市民の方々が何が必要なのか、そういう部分をみんなで議論しながら、煮詰めてつくり上げていけるものだと考えておりますし、今回の（仮称）黒石市立子ども美術館——名前が今後どのような形になるのか分かりませんが、子供世代の親御さん方が一番望むことは、やっぱり子供たちの教育の充実なんだそうでありまして。ですので、その高い目標に向かって、黒石市は（仮称）黒石市立子ども美術館を活用しながら取組を強化し、選ばれる黒石市にし、定住人口の増加を目的として向かっていきたいと考えていましたので、議員各位のさらなる御理解、御支援のほどをよろしく願い申し上げます。

以上です。

◎議長（工藤和行） 以上で、3番成田浩基議員の一般質問を終わります。

◎議長（工藤和行） 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時50分 休 憩

午後1時01分 開 議

◎議長（工藤和行） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、7番大溝雅昭議員の質問を許します。7番大溝雅昭議員。

登 壇

◎7番（大溝雅昭） 皆さん、こんにちは。自民・公明クラブの大溝雅昭です。令和7年第2回定例会におきまして一般質問をいたします。

世界を見ますと、アメリカのトランプ関税、ロシアのウクライナ侵攻、中国の力による領土拡大、イスラエルのガザ地区へのやまない攻撃など、世界の情勢は混沌としております。1945年に設立された国際連合の目的は、国連憲章第1条に記されており、「国際平和と安全の維持」、「経済、社会、文化などに関する国際協力の実現」などであります。国際連合の安全保障理事会は5か国の常任理事国がありますが、そのうちの3か国が、先ほど言いました国連憲章に全く反した行動を行っております。もはや国連は機能していない状態であると言わざるを得ません。世界の平和は遠のくばかりです。平和を守る私たちの意識も変わっていかねばならないかと思えます。

私ごとですが、昨日、令和7年度黒石市の総合健診に行きました。西部地区は10日から13日までの間でしたので、今日、明日は一般質問ですので、昨日何とか行ってきました。昨日10日の9時に受付が指定されていたところ、受付は全く混んでいませんでした。以前は、朝早くから受付したり、一度受付してまた帰ってから指定された時間に行ったり、いろいろ試行錯誤してきました。今回は、胃がん検診がやはりどうしても待たされましたが、それ以外はスムーズにいきました。バリウムを飲むのも、近年は機械に乗ってからになり、げっぷを我慢する時間も短縮されました。バリウムの量も聞いたところ、以前より10ミリリットル減っているそうです。朝早くからおなかをすかせ、半日我慢し続けなければならなかった健診でしたが、大分楽になりました。担当課の努力が見えます。褒めるところは大いに褒めたいと思います。

それでは、通告に従い一般質問をいたします。

今年の豪雪の被害は大きく、農業被害、屋根の軒が折れる被害が市内各地で見られます。ねぶた小屋も雪の被害で潰れたという話を聞きました。

1番目は、ねぶた小屋、ねぶたの雪害についての質問です。

最初、青年会議所に聞いた話では、3か所か4か所から被害の話が出ているということでした。

た。しかし、会合などでいろいろな人の話を聞くと、あそこも被害を受けている、ここも潰れているという話になりました。先ほどの三上廣大議員の質問と重なりますが、予想以上に被害が大きいので、改めて質問をいたします。

アの被害の状況ですが、まずはねふた小屋等の雪の被害について、どの程度把握しているのかお尋ねいたします。

イの支援の方法についてですが、ねふた小屋等の被害は、地域の伝統文化の継承にとって大きな課題となっています。コロナ禍で参加団体が減り、それでも頑張ってきたところが今度は雪害です。地域全体で伝統文化を守るための協力と支援が必要だと考えますが、支援についての考えをお尋ねいたします。

2番目は、地域医療についての質問です。

NHKのテレビで、6月1日と2日、地域医療についての特集番組が放送されました。1日は、NHKスペシャル「ドキュメント 医療限界社会 追い詰められた病院で」、2日は、クローズアップ現代「まさか都市部で相次ぐ病院閉鎖・医療の未来」でした。

2024年の全国の病院の経営状況ですが、赤字病院が69%、黒字は31%しかありません。黒石市でも、昔からお世話になった医師の先生方が結構やめており、新しい病院は数えるほどしかないような気がいたします。

アの市内の一般診療所数と推移についてですが、まずは一般診療所の推移はどのようになっているのかお尋ねいたします。

イの入院設備のある病院と病床数の推移についてですが、病床数の推移についてどのようになっているのかお尋ねいたします。

ウの医療提供の維持についてですが、5月26日のNHKのニュースでも、築40年以上の病院が全国1600超と、病院の経営の難しさが報道されました。物価高騰で医療資材の高騰、人件費の高騰、人材紹介への手数料の増加、しかし、今の診療報酬では病院の建て替えなどはできないとのこと。地域医療を守るため、国や自治体の支援が必要になると考えますが、地域医療の維持についての考えをお尋ねいたします。

3番目は、（仮称）黒石市立子ども美術館についての質問です。

令和8年度供用予定ですが、なかなかその姿が見えてきません。成田浩基議員の先ほどの質問もありました。私もよいものを造ってほしいということで、私の考え方を示しながら、運用について質問いたします。

アは、広く使える施設としての名称についてですが、仮称ではありますが、まず「黒石市立」ということで黒石に限定しています。「子ども」ということで子供に限定しています。「美術」ということで美術に限定しています。広く多くの人に使ってもらいたいと思います。名称をも

っと広く考え、もっと広く使える名称を募集するべきだと思いますが、考えをお尋ねいたします。

イは、検討委員会の状況についてですが、どのような運用になるのかなかなか見えてこない検討委員会の状況についてお尋ねいたします。

ウは、多用途に使える展示スペースについてですが、子ども美術館には展示スペースがあります。先頃、黒石津軽家ゆかりの宝物展に関わった関係で、黒石市には博物館などが無いので、黒石市にはセキュリティーのしっかりした展示スペースがありません。この美術館の展示スペースを多目的でセキュリティーのしっかりした展示スペースにすればよいと思いますが、考えをお尋ねいたします。

4番目は、黒石の歴史理解についての質問です。

黒石津軽家ゆかりの宝物展のお手伝いをしました。昨日の津軽新報にも載っていますが、約800名の来場者がありました。黒石市内だけでなく、黒石市外からも多くの来場者がありました。黒石の歴史について来場者とお話をいたしました。驚いたことに、御幸公園にお城があったと思っている人が結構いました。また、黒石の市章「ふつ」も、まんじ崩しだと思っている人がまだ結構いました。

アは、黒石城址などの状況についてですが、まず、黒石城址の碑が御幸公園に建てられた経緯についてお尋ねいたします。

イは、これからの取組についてですが、黒石市の歴史を誤解のないよう、できるだけ正確に理解してもらうにはどのような取組が必要かお尋ねいたします。

歴史と文化のまち、黒石のアイデンティティーが将来にも正しくつながっていくことを願ひまして、以上で壇上よりの質問を終わります。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（工藤和行） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 大溝雅昭議員にお答えいたします。私からは、地域医療についての医療提供の維持について答弁させていただきます。

これまで地域医療を支えてこられた開業医の高齢化に伴う閉院は深刻であり、その影響は、体調不良による一般受診のみならず、健康診断や休日当番医の担い手不足にも影響を与えています。さらには、市が取り組んでいる地域包括ケアシステムの構築にも安定した医療サービス提供は必須であります。

こうした状況は、当市に限った問題ではなく、多くの自治体に共通していることから、自治体病院である黒石病院が果たす役割を勘案した上で、医療従事者の確保や安定した運営のため

の財政支援等について、国や県に要望してまいりたいと考えております。

その他につきましては、担当部長等より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（工藤和行） 教育長。

◎教育長（山内孝行） 私からは、黒石の歴史の理解についての御幸公園に設置されている黒石城址の石碑が建てられた経緯についてお答えいたします。

御幸公園に設置されている黒石城址の石碑が建てられた経緯につきましては、1600年代後半から1800年代後半にかけて、黒石津軽家が黒石を治めていた時代に御幸公園を含む周辺一帯が黒石領主の居住する陣野であったことから、開町320年を記念して黒石市、黒石観光協会、黒石神社総代により、昭和51年5月10日に建立されたものです。

なお、石碑に黒石陣屋址ではなく、黒石城址と記されていることにつきましては、陣屋は本来、築城を許可されなかった領主の屋敷であり、当時、城として扱うことはできませんでしたが、石碑の建立に携わった人たちが黒石陣屋は立派な城だったと解釈し、黒石城址と記した経緯があります。

以上でございます。

◎議長（工藤和行） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（佐々木順子） 私からは、地域医療についての市内一般診療所数と推移、入院設備のある病院と病床数の推移についてお答えいたします。

当市の一般診療所数は現在13施設でございます。厚生労働省の医療施設調査によりますと、令和5年度の一般診療所数は15施設、令和元年度が17施設、平成27年度が21施設、平成23年度が22施設、平成19年度が24施設ございました。平成19年度と比較すると11施設減少しており、減少率は45.9%となっております。

続いて、当市の入院設備のある病院は、黒石病院、黒石厚生病院、黒石あけぼの病院の3施設でございます。厚生労働省の医療施設調査によると、令和5年度における3施設の病床数の合計は638床、令和元年度が663床、平成27年度、平成23年度、平成19年度が696床でございました。令和5年度の病床数と平成19年度の病床数を比較すると58床減少しており、減少率は約9%となっております。

◎議長（工藤和行） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田淳也） 私からは、ねふた小屋、ねふたの雪害について2点お答えいたします。

ねふたの雪害状況ですが、ねふた小屋の被害については、完全に小屋が倒壊した団体が5団体、一部損害を受けた団体が9団体です。ねふた本体が完全に壊れた団体が2団体、一部損害

を受けた団体は7団体です。その他、太鼓小屋、太鼓台車や前ねふたなどの関連設備に被害を受けた団体は12団体です。何らかの雪害を被った団体は18団体であり、この被害によって合同運行の参加を断念した団体は2団体です。

続きまして、協力と支援の方法についてであります。ねふたの運行には小屋の管理費、本体の修繕費、ねふた絵の製作費、子供たちへのおやつ代など様々な経費がかかるものと承知しております。市で各団体に交付している黒石市ねふた製作運行奨励補助金は、それら一切の費用に対し支援したいという思いで交付しております。

令和6年度の豪雪は多方面に被害をもたらし、これまで経験したことのない規模の災害でしたが、ねふた小屋の被害に対し補助金を追加で交付することは現状考えておりません。

以上です。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 私からは、（仮称）黒石市立子ども美術館と黒石の歴史の理解について順次お答えいたします。

まず、広く使える施設名称を募集するべきではないかとの御質問ですけれども、施設名称については、当該施設の基本理念や基本構想を基に黒石市美術施設検討委員会において検討した上で、本年10月を目途に正式名称を決定したいと考えてございます。

また、正式名称とは別に、利用促進や認知度の向上を図り、親しみやすい名称としたいため、公募により愛称を募集することも検討してございます。

次に、検討委員会の検討状況と今後の予定でございます。

黒石市美術施設検討委員会による検討状況については、具体の運営方針及び開館時間について検討した結果、当面の間は市直営で運営することとし、開館時期につきましては令和8年3月までに工事の完了、建物の引渡し、備品の納入を完了し、4月からは各スペースの設営、スタッフの研修、開館の周知やオープニングイベントに係る準備などを行った上で、令和8年6月に開館することとしたところでございます。

今後の予定といたしましては、7月中頃までに施設に必要な備品の考え方を整理し、10月中に施設の正式名称の決定、その後、開館に向けたソフト事業を含む事業計画の検討を行う予定としております。

次に、セキュリティーが整った展示スペースがあればよいという御質問ですけれども、（仮称）黒石市立子ども美術館における展示スペースのセキュリティーにつきましては、閉館時においては警備保障システムの管理を予定しており、開館中は監視カメラでの管理、それから当該施設の職員や企画展スタッフを配置するほか、企画展の規模や内容に応じて業務委託などの対策を講ずることを想定してございます。

続いて、黒石の歴史の理解についての黒石市の歴史を誤解なく理解してもらうにはどのような取組があるかとの御質問です。

黒石市の歴史を誤解なく広く市民に理解していただくため、平成28年度から市民を対象に歴史講座を実施し、黒石の成り立ちや黒石市内に所在する文化財などに関する講座を行っております。これまで実施した歴史講座では合計で延べ816人の方々が参加しております。今年度も7月から3回開催する予定としております。

また、市内に所在する学校や団体などから黒石の歴史や文化財に関する講座の依頼があった際には専門職員を派遣しており、令和6年度は7件の講座を実施いたしました。

私からは以上です。

◎議長（工藤和行） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎議長（工藤和行） 再質問を許します。7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 前の2人と重なっているところもありますけれども、私の視点で質問させていただきます。

まず、ねふたの雪の被害についてですけれども、34団体のうち18団体が何かしらの被害を受けているということは、半分以上が被害を受けているという——思ったよりも深刻な状況だったのかなというふうに思いました。そして、2団体が今年の運行を断念するということでしたが、例えば今年だけ断念するのか、もう諦めてやらないのか、その辺の情報がありましたらお知らせください。

◎議長（工藤和行） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田淳也） ねふたの修理ができれば、令和8年度から参加したいという意向でお聞きしております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） ひとまず、修理して参加したいということで——今年は残念ですが、それにもお金がかかりますので、今年参加できないということも関係するのかなと思います。

イの協力と支援についてですけれども、人形ねふたに50万円、扇ねふたに10万円の補助を出しています。人形ねふたに関しては、市の文化財ということで、前から文化財を守るということで出させていただいております。そして、扇ねふたのほうは、特にコロナ禍で参加台数が少なくなっていることに対して、市でも協力してもらって本当に感謝しております。

ただ、今回の雪の被害は緊急的なものがあり、コロナのときでも頑張ってきたところが、結局ダブルパンチですね。やっとならしているのに、それにまた被害を受けて本当に大変な

状況ではないかと思えます。先ほど答弁もありましたが、雪害対策としての支援ができないのか、もう一度お尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田淳也） 午前中も答弁したとおり、繰り返しになりますが、黒石市ねふた製作運行奨励補助金は、ねふたを製作し、合同運行に参加するまでの全体経費のうちの一部をねふたの種類に応じて交付するものです。ねふたを製作する際には必ず小屋も必要となりますので、その小屋の維持費も含まれるものと考えております。

また、各団体によって、ねふたの小屋の形態が異なっていることから、雪害の度合いにもばらつきがあり、公平な取扱いも難しいと考えられます。このことから、修繕に関する費用を別途支給することは、今のところ考えておりません。

以上です。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 公平な支給ということで難しいということですが、建物の崩壊でも全壊、半壊、一部損壊といろいろ基準がありますので、基準を設けてやるという方法もあろうかと思えます。

ねふた小屋等の雪害が起こった理由の一つとして、小屋の設置場所が確保しづらくて、やっと借りているところにねふた小屋があると。ですから、仮設のものしか建てられない。です。結果として建物もしっかりしていないので被害が起きたケースが多いと思えます。ねふた小屋の経費のほかにも、場所の確保などにも市として協力できないのかお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田淳也） ねふた小屋の設置場所については、令和5年第2回定例会で類似の答弁をしておりますが、市で所有する土地の多くは、公の目的に供される行政財産となっており、地方自治法により原則として貸付けが禁止されております。

また、ねふた小屋を設置する場合には、その目的での利便性だけでなく、他の目的での利用を阻害しないかや、周辺にお住まいの方の理解も含め、検討すべき事項が多岐にわたることが想定されます。このことから、条件がかなり厳しくなることが考えられますので、まずは運行団体で十分検討していただいた上で、御相談いただければと考えております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） ねふた小屋の場所については、何団体か市役所にも相談したところもあると聞いております。きちんとしたものが建てられれば被害も少ないですし、きちんとした建物であれば保険にも入れるという考え方もできますので、そういった方向でも——すぐには無理

でも考えていただきたいと思います。

この間、青森市議会でラッセランドのねぶた小屋の常設の質問が出ていました。青森市でも3つのパターンを想定して、検討に入るといふふうに書いておりました。黒石市でもねぶた小屋の常設ができれば団体も助かりますし、通年の観光にもつながります。将来的には必要になるのではないかと思いますがいかがでしょうか。お考えがあればお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田淳也） 午前中の議論の中でもあったように、黒石ねぶたは地域コミュニティの醸成のために必要なものと考えております。ねぶた小屋が地域コミュニティの場となっていることから、町内などから離れた場所に設置することはコミュニティの場から離れてしまうということも考えられますので、今のところは、やはり地元の各町内であるとか、団体に近いところに設置するほうが好ましいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 午前中の答弁もそうでしたけれども、なかなかできない、できないの答弁が多くてちょっと残念なんですけど、もう少し前向きに考えていただければなと要望するものがあります。今すぐでなくても、将来的なことも考えながら対応していただければなと思います。

次に、2番の地域医療についてですけれども、診療所の数ですが、やはり大分少なくなっている現状があるかと思えます。それは今までの経緯ですけれども、今後どうなるのかということ、今後もこの減少傾向が続く可能性があるのではないかと思います、その辺についてお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（佐々木順子） 直近の5年間を見ますと、全体の医療機関数は減少しておりますが、新たに2医療機関が開業していることも事実です。しかし、これまで地域医療を支えてこられた医師は高齢になってまいりますので、後継の医師確保や新規開業がない限り、一般診療所は減少していくものと考えております。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 知っている病院の何々先生は何歳過ぎていますし、何々先生は何歳過ぎていますし、何々先生は辞めましたし、リハビリで頑張って何とか復帰しようという先生もいますが、やはり医師の高齢化、そしてまた後を継ぐ人がなかなかいないという状況もあろうかと思えます。

先ほど、赤字の話もしましたけれども、今の医療を取り巻く状況というのは、経営するのに難しい状況になってきているということもあろうかと思えます。

先ほど、病床数についても質問しましたが、病床数についての今後の予想は、減少傾向があるのかどうかお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（佐々木順子） 県では平成28年度以降、国が推進する医療機関の機能分化と連携を進め、良質かつ適正な医療を効率的に提供できる体制整備を目的とした地域医療構想の考え方に基づき、地域医療体制を形成していくこととしております。

当市においても、将来の病床数の減少が入院治療を必要とする市民にとって不利益にならないよう、地域医療体制の維持に努めてまいりたいと考えます。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 結局、市民の不利益にならないようにということで、大変な状況になってくるのかなというふうに思います。そういった中で、地域医療を守るために——先ほど市長も言いましたけれども、やはり国や自治体が支援をしていかなければ、本当に先がなかなか見えない状況になっていると思いますけれども、その支援についてどのようなものがあるのか、また、どのような支援が必要だと考えているのかお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（佐々木順子） 県においては、医療の担い手育成等確保に対する事業や、オンライン診療設備整備への支援、地域医療や救急医療体制の充実・強化のための支援等が行われております。

当市においては、弘前圏域定住自立圏事業として、休日及び夜間における初期救急診療事業や第二次救急診療事業を実施し、圏域内の救急診療体制維持に取り組んでおります。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） このような状況下で、黒石病院の地域での重要性がますます高まると考えます。病床数も減っていきそうな中で、市民のニーズを守るためにも黒石病院の必要性があると思いますが、どのように考えているのかお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（佐々木順子） 黒石病院は、地域の救急医療を支えるとともに、開業医の減少により、かかりつけ医としての役割も担っており、さらには加速化する高齢化社会を迎えるに当たっても、地域医療提供体制の維持に欠かせない存在であると考えます。一方で、医師をはじめとする医療従事者不足や物価高騰などの影響が続き、健全で安定的な病院経営は厳しい状況となっております。

このような状況を解決するためには、財政面での大きな負担が生じることから、国や県に対して支援をお願いするとともに、将来を見据えた取組の検討も必要であると考えております。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 黒石病院にはガンマナイフがありますけれども、北東北では黒石病院と秋田の病院にしかなくて、実際、秋田の病院は工事中でガンマナイフは使えないそうです。ですから、黒石病院の役割というのは、ますます大きなものになっているという現状があります。国も県も含めて地域医療というものを、黒石病院のことも考えながら、これから考えていかなければならないと思っています。

提言になりますけれども、黒石病院の病床数の削減に対する補助金が繰入れのある病院が対象外になったという話も聞きました。ますます黒病病院の経営には危機感を持って当たらないといけないと思いますが、地域医療を守るため、そして市民サービスを維持するという一方で、黒石病院の問題も真剣に考えていかなければいけないなというふうに思います。ここでこれ以上は話しませんが、そういった話をまたしていきたいと思っています。先ほども言いましたけれども、県だけではなく、国も維持ということにしっかりと対策を取ってもらう時期になっているのかなというふうに思います。

次に、3番の（仮称）黒石市立子ども美術館ですけれども、先ほどちょっと名称のことを言いましたけれども、例えば「黒石市立」を津軽にするとか——公募するのであれですけれども、例えば「子ども」を子供だけに限らずみんなのにするとか、「美術」を美術だけじゃなくて、ちょっと広げて芸術にすれば、少しでも広がるわけですね。イメージが広がって使う人も広がると思います。公共施設は成田浩基議員も言いましたけれども、使って何ぼでということ、多くの人に使ってもらえるようにしてもらいたいということ——また、この子ども美術館的なものは全国にもそんなない施設ですので、その辺、全国を見ても、また地域を見ても、市民にも広く使ってもらえる施設にしていきたいという思いでお話をさせていただきましたけれども、いかがなものかもう一度お願いいたします。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 議員おっしゃるとおり、子供、それから美術に限定したものではなく、市民の皆さんが創作活動や体験活動を通して、心の豊かさを実感できる場にしたいと考えております。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） イの検討委員会の内容についてですけれども、教育の場——人を育てる施設として、育てる人が重要だと思います。この施設には、美術館ですので芸術のプロが必要だと思います。子供が小さいときから本物と接することがすごく大事なことだと思います。先ほど、職員の配置についても少しお話がありましたが、やはりどのような人を置くのか、そしてまた、そういうプロ的な人も置けるのか、その辺について考えをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 芸術のプロである人材が必要ではないかという御意見ですけれども、（仮称）黒石市立子ども美術館における目指す姿、世界に羽ばたく人材の育成、それから多世代の交流による生涯学習の実現のために当然必要かと思えます。企画展やソフト事業の内容に合わせた人材の確保が重要であると考えております。

企画展やソフト事業に必要な人材については様々な活動が想定されますので、非常勤や業務委託を含め分野ごとに専門性のある人材を登用できるように、今後、調整してまいります。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） その芸術の内容というか、先進的な芸術の活用について、ちょっと私の考えも含めながらお尋ねいたします。

美術といえば美術ですけれども、芸術の世界は今やテクノロジーの結合という時代になっています。デジタルアートの展示、サステナブルな考え方、参加型アート体験、グローバルなつながりなど、こういうことを総合的に行うのが、今、芸術の世界になっているかと思えます。

そういった中で、有名なチームラボですね。世界にもすごく注目されているチームラボの活動、映像と体感の世界ですね。また、プロジェクションマッピングの活用、AIの活用など新しいアートの世界に触れることも重要だと思えます。そういった中で、その辺の新しいアートについての考え方をお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 先進的な芸術の活用ということですがけれども、デジタルデバイスを活用した映像の撮影や編集のほか、屋外の自然環境に囲まれた中で映画や実際に制作した映像を鑑賞するなど様々な活動を想定しており、当該施設を運営していく中で多様化するニーズに的確に対応してまいりたいと考えてございます。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 芸術の基礎も必要ですけれども、芸術の未来を見せることも必要で——何でもやれと言えばお金がかかるんですけれども、考え方として両方取り組んでいく必要性があるろうかと思えます。

前にも提案したことがあるんですけれども、造ったからには頻繁に定期的にイベントを行い、いつ行っても何かやっているとか、あとは親子や子供、そして市民だけではなく、地域の人や日本中の人、世界の人にも新しい場所をつくってもらうような施設になってもらえればいいかなど。そこに行けば必ず楽しい何かがあるということで、定期的なイベントなりを企画しながらやってもらいたいという私の考えですが、市のお考えをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎**教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也）**（仮称）黒石市立子ども美術館は、子供から高齢者までの幅広い世代が、芸術に関する様々な活動ができる空間となることを目指しております。親子で楽しめるイベントの開催、気軽に芸術に触れることができるワークショップの開催などを定期的に行う予定としてございます。

◎**議長（工藤和行）** 7番大溝雅昭議員。

◎**7番（大溝雅昭）** 定期的にとおっしゃいましたが、頻度が重要だと思いますので――例えば、毎月の第何週は何をやっている、第何週は何をやっているぐらいの頻度で、ぜひとも楽しんでいけるところにさせていただきたいというお願いであります。

次に、ウの展示スペースの話ですけれども、黒石には博物館がないので多目的の展示スペースが必要だと思います。黒石津軽家ゆかりの宝物展では、セキュリティーの甘さを開会式に来た市長に指摘されて、それで黒石警察署の協力を得ることができました。市長、本当にありがとうございました。「これだばみんな盗まれてしまうだろう」と市長に言われて、そこまでやっぱ気が回っていなかった。やることに一生懸命で、気が回ってなかったという現状もあります。

そういったことで、黒石でいろいろな展示とかのイベントをする際、この子ども美術館の展示スペースを多目的に、そしてきちんとセキュリティーの高い場所として提供できるようにさせていただきたいということで、先ほど少しそういう話もありましたけれども、そのことについてももう一度伺いたします。

◎**議長（工藤和行）** 教育部長。

◎**教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也）** 先ほども若干触れさせていただきましたけれども、定期的な企画展などを実施する場は設けておりますので、セキュリティーの面も含めて今後のソフト事業を展開してまいりたいと思います。

◎**議長（工藤和行）** 7番大溝雅昭議員。

◎**7番（大溝雅昭）** ありがとうございます。要望ですが、5月29日に、くろいし景観資産である第二部の消防屯所を取り壊すという説明がありました。一度は残す方向で努力するということがあったのですが、担当課もいろいろ頑張ってくれたようですが、解体するしかないという結論で、市民も、西部の皆さんも大変残念に思っておりました。大正9年に建設されたあの規模の火の見やぐらは、全国でも非常に珍しい貴重な建物であります。ですから、（仮称）黒石市立子ども美術館に第二分団の火の見やぐらに移築なりすれば、黒石のシンボルが残りますし、市民に愛される施設になると思います。今すぐどうのこうのという結論は出ないと思いますけれども、これからぜひとも検討していただきたいと思いますので、何課にお願いすればいいかということもまたいろいろあるかと思いますが、取りあえずそういったことをお願いし

たいなと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、4番目の歴史についての質問ですけれども、黒石城址の碑が320年祭のとき、昭和51年に建てられたと。市で建てたわけでもないし——ただ、あまりにも立派な石碑で勘違いする人がいるというちょっと不思議な状況が生まれております。どうしても弘前城のイメージがあるので、ちょうど御幸公園も下に掘みたいものがあるって、それで高台になって、「あそこに弘前城みたいな城があったんでしょう。黒石城址って書いてあるし」と。イメージの中で、そういう話も実際ありました。市としては、その石碑の隣に陣屋の絵図もしっかり設置してあって、ここは陣屋だったんだよというのを出しているんですが、やはりインパクトが強すぎて、そっちのほうに引っ張られているような気がします。

先ほどもありましたけれども、当時、お城は幕府の許可がなければ建てられないので、そして黒石は最初は5000石、まだ大名にもなっていない黒石がお城を建てられるわけがないというのが当たり前の話なんですけれども、それを勘違いしているところがまだあるのかなと思っています。

また、「ふつ」に関してもまだ理解が不足しています。「ふつ」は黒石のマークですね。あれは市章——2500年前の中国の政治家が使っていた印で、黒石津軽家の旗印にも使っていました。それを黒石市は市章に使っています。まんじ崩しという弘前の二番煎じみたいな誤解から、もっと昔からきちんとしたものだったんだよという正確な「ふつ」の説明をしていく必要があると思いますが——いつの頃からか、そういう説明がされるようになりましたけれども、その辺の説明が変わったのはいつ頃なのか、もし分かっていたらお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） いつ頃からまんじ崩しと言われていたものが、「ふつ」と呼ばれるようになったかにつきましては、正確には分かっておりませんが、平成11年3月17日に公益財団法人黒石市民財団が発行しました「私たちの黒石」第1集 黒石のむかしの中で、黒石市の市章については、まんじ崩しから徐々にふつと呼ばれるようになってきていると記されているところまでは確認してございます。

以上です。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） なかなか正確なのは難しいと思いますが、私的には考えれば、毎年成人式に行けば二十歳のしおりに「ふつ」の説明がいつからか載るようになりました。その前はなかったように思っていました。

そういった中で、歴史と文化のまち黒石ではありますが、黒石市の歴史を間違いなく伝えるため、これからはいろいろな取組が必要だと思っておりますが、取組についてお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 黒石市の歴史などに関する広報くろいしや市ホームページによる発信につきましては、広報くろいしにおいて、令和2年度から6年度にかけて、「おらほの文化財」と題し、市内に所在する文化財の紹介を行ってまいりました。それから、市のホームページにおいても、市の文化財や黒石市の偉人に関する人物伝とか、情報発信を行っているところがございますけれども、今後も黒石の歴史などについて誤解なく理解していただくために、広報やホームページ等で特集として発信することも検討してまいりたいと思います。

以上です。

◎議長（工藤和行） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） やはり歴史と文化のまち黒石ですので、黒石市の正確な歴史を自信を持って発信していく必要があるかと思えます。市報と言いましたけれども、この間の市報に書かれていた健康特集は非常にインパクトがありました。ただ発信する——ただと言えればちょっとあれですけども、今回は歴史だという感じで、そういうふうにインパクトを持って広報をしていくと効果があるのかなというふうに思えますし、また、ネットもそれを説明しているだけではなくて、何かを引きつける要素を持ったネットの発信にしていければよいかなと思えます。

その辺、もう少し頭を使ってもらいながら、黒石市のよさをもっと知ってもらい、そしてまた、黒石市を愛する市民もそうですし、市民以外の人にも、もっともっと黒石市を知ってもらい好きになってもらうためにも——さっき言った小さな2つだけではなく、もっと大きな意味で黒石の歴史・文化をどんどん発信していただければなと思えます。

以上で、今回の質問を終わります。どうもありがとうございました。

◎議長（工藤和行） 以上で、7番大溝雅昭議員の一般質問を終わります。

◎議長（工藤和行） 暫時休憩いたします。

午後1時53分 休 憩

午後2時05分 開 議

◎議長（工藤和行） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、13番中田博文議員の質問を許します。13番中田博文議員。

登 壇

◎13番（中田博文） 令和7年第2回定例会で一般質問をさせていただきます自民・公明クラブの中田博文でございます。

先般、日本の借金は24年末で1323兆円になると報道されておりました。12年前、1000兆円でしたので、このまま推移するなら日本の国は近い将来、取り返しのつかない借金依存の国になるのではと危惧するものであります。

また、さきの地方紙に平川市が報道されていて、20年前、借金は236億円、貯金は29億円、17年後、借金は194億円に縮小、貯金は130億円まで増え、借金返済の実質公債費比率は20.7%から8%に改善、現在は子育て世帯を中心に選ばれるまちとなっているとのことであります。

要因は、土地が安い上に住宅建設への支援、保育料無料化や医療費給付など、各種補助に手厚いとのことであります。人口減少や少子化が加速する中、人が地域にとどまれるような産業を育てていく必要があると発表しています。

黒石市は、25年前、450億円の借金、現在は約200億円に減少。実質公債費比率は24.9%から約13%に改善はされていますが、理想であります1桁にはまだまだ遠いのであります。全国の自治体で、人口の増、または減少の抑止が成功しているところは、子育て支援に力点を置いているところが多いのであります。当市も、成功市を参考に施策を研究していただきたいと存じます。

それでは、質問に入らせていただきます。

1番目は、民生委員の成り手不足についてであります。現状と任期満了に伴う今後の見通しについてであります。

令和5年にもこの件は取り上げており、前回は無給なのに仕事はハード、国は苦肉の策として75歳から78歳に引き上げ、全国で1万5191人の欠員、市内で欠員が生じそうなところは町内会長が嫌々なっている。青森で会議があってもガソリン代、駐車場代は実費。そこで、当市の現状と定数はどのようになって、市独自の支援はあるのか尋ねたところ、民生委員、児童委員82人に対し98.7%、義務的な会議や研修会に対しては、その都度費用を補助しているとのことであります。

現在の充足率は100%。しかし、いろいろな方から、今年は成り手不足は進むだろうとのこと。担当課は、改選に当たりどのような運動をし、どのような感触、充足をどのように考えているのかお願いいたします。

公募、広くPRしなければと思います。ある方は、町内会長にだけ頼り切っても困るということでした。成り手がなければ、町内会長自らが責任を感じ民生委員を受けることが慣習となり、任期が来ると逃げるがごとく町内会長を辞めていくそうです。きつい言葉で言うと、丸投げはやめてほしいということでした。

一つの例として、市の職員が消防団員になっています。民生委員にはなれるものでしょうか。成り手不足解消には、定数や条件の緩和、現状に即する考え、対象範囲を広げていかなければ

将来は形成されません。国の法律に基づくものですので難しいとは思いますが、所見を賜りたいと存じます。

2番目は、公民館のコミュニティセンター化についてであります。

アとして、10地区の実施について。

この件は、今まで幾人もの議員が取り上げております。推進については、最近数多くの地区が賛同、しかし、小さな地区は公民館運営もままならないとのことであります。よって、センター化運営は困難の声があります。10地区の感触をどのように感じているのかであります。また、担当課はセンター化推進に当たり、どのような思いと今まで進めてきた施策の概要、感想があればお願いいたします。

それと、職員の給料が大幅に上がるので、辞めていく人はないだろうと喜んでいました。しかし、営利活動や今まで以上に活発な内容になる地区と、さほど変わらない地区になるのではと思います。担当課はどのような期待をお持ちか見解をお願いいたします。

3番目は、街路灯（LED）についてであります。

町内会への移管について。

この件に関しては、過去に大溝雅昭議員が取り上げております。町内会管理分の街路灯は約4200基。市が電気代を払ってくれる10年目は、来年の令和8年。街路灯の寿命は10年から15年で、1基の工事費は約3万円。街路灯は自動センサーゆえに、街路灯の寿命はそれぞれ違うので更新時期はまちまち。そこでお尋ねいたします。

年間の電気代は幾らになるのか。街路灯の更新はどのようになるのか。電気代1基1500円から1800円の3割程度、500円を地域の防犯や交通安全の取組を支える財源や、地域に即した財源として活用できるとしてあります。そこで、継続で令和9年から電気代と街路灯の更新は、市が持つということによろしいのでしょうか。

また、街路灯の移管を耳にしますが、できるのであれば、電気代、街路灯の更新は市のほうで永遠にさせていただきたいと思いますが、答弁と所見を賜りたいと存じます。

4番目は、雪害による市内の建築物の被害状況についてであります。

今冬の豪雪で、2月23日には最大積雪深176センチメートルを記録し、過去に類を見ない被害と聞き及んでいます。よって、住居、空き家、公共施設の被害件数をお知らせください。

5番目は、雪害による農林被害の面積の規模、金額についてと支援策についてであります。

この件は、先ほどの三上廣大議員と重複するやもしれませんが、よろしくお願いいたします。

この件は、令和7年の豪雪被害状況のまとめが報告されており、黒石市農業生産推進本部長である佐藤農林部長から、調査は過去最悪レベルで深刻な被害とコメントがありました。報告から被害総額は36億4300万円、果樹は912ヘクタール、被害量は4044トン、被害額は36億円、

パイプハウス損壊38件、面積は7932平米、被害は2700万円、ブドウ棚損壊44件、小屋は損壊2件となっていますが、これらのもっと分かりやすい説明をお願いいたします。

そして、市の支援や国・県の支援はあるのかであります。また、国や県と市との抱き合わせとの支援はあるのか。さらに、心配されることは、りんごの苗木は手に入らないということですので、今年はどうなるのか、来年はどうなるのかであります。

また、被害地の視察において、りんご畑が全滅した方がいました。全部改植しなければなりません。どのような補助が発生するのか。ちなみに、何年経過すると収入になるのか一連の説明もお願いします。また、伐採した木、掘り起こした根っこの処分はどうなるのかもお願いいたします。

さらに、住居が壊れたりすると、罹災証明書が役所からもらえる、いろいろな便宜が図られます。農業分野にもあるのか。災害によって資金を要する方に、市と金融機関とで有利な制度をつくる場所はあるものでしょうか。また、もし収入が数年間途絶えることになった場合、支援策なり補助金等はあるのでしょうか。数十年に一度という災害ですので、市は最大、最善の支援をお願いいたします。

最後の質問は、黒石市民文化会館の今後の見通しについてであります。

再開に向けての協議についてであります。

この件に関しての一番新しい質問は、令和5年第3回の定例会において佐々木隆議員が取り上げております。市長の答弁は、「雨漏り、劣化、設備の対応、維持管理をしている。市全体の計画の中で検討してまいりたい」と答えています。また、教育部長の答弁は、「平成22年当時、改修費用は約6億8000万円と試算している。その後、施設の老朽化、給排水管や電気設備の経年劣化が進み、消費税、人件費、物価等の高騰が続き、当時の試算以上になる」と答弁しています。

市長、教育部長の答弁を聞くとき、ほとんど施設は老朽化が進み改修費用はどれくらいの額になるのか予測できない、想像以上の額になるものと思われれます。さらには、再開を望む市民は高齢化が進み必要とする声は薄らいでいます。なぜなら、市民は諦めている方が多いのであります。私も何度か再開を望み、お願いをしてきましたが、財源がないことと、再開が議題に上らないと承ってきました。

休館は平成20年からですので今年で18年目です。昔々ですが、鳴海元市長の任期中に再開を求めましたが、結論はあくまでも再開のための努力をするという、体裁のよい差し障りのない言葉で終わっているのであります。高樋市長の任期中には19年、休館を発表してから来年は20年目。高樋市長には、任期中に結論を出していただきたいと存じますがいかがでしょうか。

国会を見ても、都合の悪いものは答弁も説明もありません。誰かが苦渋の決断をしなければ

ならないのではないのでしょうか。市長の所見を賜りたいと存じます。また、15年前の6億8000万円はどれくらいの額になるのかお願いいたします。

以上で、壇上からの質問を終わらせていただきます。御静聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（工藤和行） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 中田博文議員にお答えします。私からは、公民館のコミュニティセンター化についての10地区実施について答弁させていただきます。

公民館のコミュニティセンター化につきましては、昨年6月から7月にかけて実施した地区協議会との意見交換会後においても、各地区を回り、地区協議会の皆様と意見交換を重ねてまいりました。

地区の反応といたしましては、当初はなじみのある公民館からコミュニティセンターへ体制が変わることや、集落支援員という新しい制度の導入に対する不安の声が多々寄せられていましたけれども、制度の概要を説明し理解を深めていただいたことで、地区の皆様方にもコミュニティセンター化について、前向きに検討いただいていると感じております。

現在の進捗につきましては、令和8年4月からの供用開始に向け、5月21日に実務担当である公民館職員と会議の場を設け、貸館の基準などの運営体制について意見交換を行ったところであります。

また、同日、10地区協議会長及び事務局長を対象に会議を開催し、コミュニティセンターの運営に係る組織体制について意見交換を行いました。

どちらの会議でも非常に活発な意見が取り交わされたところであり、建設的な話し合いがなされているものと感じております。

今後も、令和8年4月からコミュニティセンター供用開始に向け、地区の皆様方の御意向を確認しながら進めてまいります。また、私自身も先般、黒石市地区協議会連絡会にも参加し、各会長さん方も前向きに捉えていただいているように受け止めさせていただきました。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降壇

◎議長（工藤和行） 総務部長。

◎総務部長（中田憲人） 私からは、街路灯（LED）の町内会への移管についてと、雪害による建築物への被害についてお答えいたします。

街路灯1基当たりの年間電気料につきましては約1800円で、市全体の街路灯の本数はおおよそ5000基ありますので、年間の電気料総額は約900万円、10年間の電気料は約9000万円となる見

込みです。

次に、LED街路灯の耐用年数はおおむね10年から15年とされ、時間にして約6万時間となっております。また、更新予定基数は、設置場所や使用状況によってばらつきが出ますが、昨年度は30件ほど修繕を実施しており、令和7年度は64万円の修繕料を見込んでおります。更新に係る費用は1基当たり約3万円で、今後、更新件数は増加するものと予想されます。

次に、町内会から地区協議会へ街路灯1基当たり年間500円の負担金を納めていただく内容は、直接的な維持費用ではなく、例えば、防犯、交通安全、防災など地域活性化のための活動費として設けたもので、地域の主体性を維持するための取組であることを御理解いただきたいと思えます。

次に、街路灯の管理体制であります。もともと地域の防犯目的で町内会が自主的に設置、管理を行ってきた経緯がありますが、少子高齢化や町内会活動の縮小といった課題がある中で、これからは市が一元的に所有、管理する施設として明確に位置づけ、責任を持って管理していく体制に転換いたします。

このような方針の下、令和8年度以降の市の負担継続につきましては、現時点では期限を設けるものではなく、恒常的な制度運用を前提に進めております。もちろん、将来的には制度の見直しが必要となる可能性はありますが、地域の安全・安心を第一に考え、急な変更や混乱を避ける形で継続的に取り組んでまいります。

次に、雪害による建築物への被害についてと、住居、空き家、公共施設の被害状況であります。今冬の降雪は、最大積雪深が2月23日時点で176センチメートルを記録し、累計降雪量が751センチメートルに達するなど、過去10年間で最も多い記録的な豪雪となり、屋根の雪下ろし時の転落などによる人的被害が多数発生したほか、くろいし景観資産である第二消防部屯所など多くの建物が損壊し、基幹産業である農業分野でも甚大な被害をもたらしました。

雪害による建物の被害の内訳ですが、住家の半壊が1件、一部損壊が14件の計15件。非住家では全壊が12件、半壊が28件、一部損壊が6件の計46件となっております。そのうち、店舗や小屋を含む空き家の被害として、全壊が5件、半壊が15件、一部損壊が4件の計24件となっており、そのほか、全体数は把握していませんが、屋根の軒折れ被害が数多く発生いたしました。

公共施設においては、小・中学校の窓ガラスや市営住宅の外壁破損などによる建物被害が45件、ごみステーションや樹木、公民館の物置小屋など構築物の損壊被害が93件と報告されています。

今回の豪雪の状況と対応をしっかりと検証した上で新たな取組方針を検討し、冬に向けた備えや対応を強化してまいります。

私からは以上です。

◎議長（工藤和行） 企画財政部長。

◎企画財政部長（樋口秀仁） 私からは、コミュニティセンター化になった後の各種活動の格差に対する考え方についてお答えいたします。

公民館をコミュニティセンター化することで、これまで社会教育法により制限されていた営利活動等も実施可能となりますので、地区協議会の活動の幅は広がることとなります。

一方、10地区の協議会の現状は、居住者数等の人口構造や居住環境がそれぞれ異なりますので、地域が必要とする取組に応じて地区の体制に差が出ることは自然なことと考えております。

したがって、市といたしましては、それぞれの地区で独自性を持って活動を進めていただきたいという考えの下、今後は、地区がそれぞれの実情に合わせ自発的に取り組む活動に対して、寄り添って支援するよう努めてまいります。

私からは以上となります。

◎議長（工藤和行） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（佐々木順子） 私からは、民生委員の一斉改選に向けた現状と今後の見通しについてお答えいたします。

民生委員・児童委員の一斉改選に当たり、市では令和7年3月号の市広報紙にて一斉改選のお知らせと委員の募集の記事を、令和7年5月号には民生委員活動強化習慣に合わせ、活動内容についての記事を掲載いたしました。その後、市から各町内会長に対し、民生委員候補者の推薦を文書にてお願いしております。

民生委員の充足率は全国的に年々下がっており、成り手の確保については国全体の課題となっております。当市においても、候補者については各町内会長に推薦をお願いしておりますが、大変御苦勞されているのが実情であり、大きな課題であると認識しております。

民生委員の充足のため、後任の方の御推薦をしていただけない地区においては、市でも後任者選出に当たり、再度、広報紙やホームページ等での呼びかけを実施したいと考えております。

民生委員・児童委員の定数は、令和6年に市内6地区の協議会長から定数について希望や意見を伺った後に、県との事前協議を経て民生委員の定数が82名、主任児童委員が10名で変更なしと決定いたしました。

また、選任要件の緩和につきまして、厚生労働省は令和6年度に行われた全4回の民生委員の選任要件に関する検討会において、任期期間中に近隣自治体に転居した後も残任期間のみに限って活動を認める方針を固めており、市や市民生委員推薦会において適否を判断することが可能となりました。

市といたしましては、現在、町内会長を通じて推薦していただけるよう依頼しているところですので、民生委員の活動に御理解、御協力いただきたいと考えます。なお、議員御指摘のと

おり、市職員を含む地方公務員が民生委員の推薦を受けることは可能ですが、各町内会からの回答状況を踏まえ、成り手の確保に向け努力してまいります。

◎議長（工藤和行） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 私からは、雪害による農林被害についての面積の規模と金額について、支援策についての2点お答えいたします。

今冬の豪雪による農林関係の被害総額は36億4379万2000円に上ります。被害のほとんどはりんごの枝折れであり、その被害額は36億981万7000円となっております。被害面積は912ヘクタール、言い換えますと912町歩です。本市のりんご栽培面積1228ヘクタール、言い換えると1228町歩の74.3%に当たります。また、減収量については4044トンが見込まれ、本市のりんごの推計収穫量である2万2000トンに対して18.4%の減収が予測されております。

そのほかの被害でございますが、農業用ハウスの損壊が38件、ブドウ棚の損壊が4件、農作業小屋の損壊が2件確認され、被害額は合わせまして3397万5000円となっております。

次に、支援策についてお答えいたします。

市の支援策といたしましては、雪害を受けた生産基盤の復旧に向けた苗木、枝受け支柱、塗布剤等の購入費用の一部助成を予定しております。また、国は被害果樹の植え替えやそれに伴う未収益期間への支援を発表し、県においては被害果樹の撤去や修復に要する機械のレンタル経費及び農業用ハウスの修繕や再建に要する経費の一部助成を行っているところです。県事業である農業用ハウスの修繕等につきましては、市でもかさ上げを行う予定としております。

次に、今年の苗木の供給状況でございますが、品種や台木によっては確保が非常に厳しい状況であり、園地の復旧に遅れが生じることが懸念されております。そのため、市では中・長期的な苗木助成の実施を予定しているところでございます。

今後、苗木の植え替えに国の事業を活用した場合は、未収益期間の支援を合わせると、普通樹では10アール当たり39万円、わい化樹では55万円が助成される見込みとなっております。なお、収穫できる成木になるまでは、普通樹では約8年、わい化樹では約5年を要します。

続いて、伐採樹の処理でございます。

集積場所を市内に設置し、まきを必要とする市民の方々を中心に無料配付を行う予定としております。

次に、罹災証明についてでございます。

農業分野におきましては被災証明となります。過去に、干ばつや豪雨災害の際に発行してございます。

次に、資金制度の構築についてです。

これまでに金融機関と連携して実施したことはございませんが、金融機関による災害関連資

金の活用について、農業者の方々には周知してございます。

最後に、農林分野では生活に関する直接的な支援はございませんが、今後も関係機関と連携しまして、幅広いリスクに対応する農業経営収入保険や果樹共済といったセーフティネットへの加入促進を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 私から、黒石市民文化会館の今後の見通しについての再開に向けての協議についてお答えいたします。

教育委員会といたしましては、黒石市民文化会館は社会教育施設として、そしてまた、本市の文化振興の拠点として必要な施設と認識しており、引き続き再開を見据えながら、安全性の確保を最優先とし、必要な点検や補修等の維持管理を継続的に行ってまいります。

そして、現在実施している市役所本庁舎整備や（仮称）黒石市立子ども美術館の整備、旧中郷小学校跡地に整備される中央防災公園の整備などの進捗を考慮し、市全体の計画の中で再開について検討してまいります。

再開する場合の改修費の試算でございますが、議員がおっしゃったとおり、平成22年に試算を行ってから15年経過しており、当時の状況から人件費、それから物価等の高騰、各設備の劣化の進行など様々な条件が異なっておりますので、試算に関しては再調査が必要と考えておりますが、これについても多額な費用が見込まれることから、試算につきましては再開の見通しが立った時点での実施になろうかと考えます。

以上です。

◎議長（工藤和行） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎議長（工藤和行） 再質問を許します。13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 民生委員のほうから再質問させていただきます。

近年、75歳から78歳に定年の年齢が上がったということでもありますけれども、私個人的に考えるには、人によっては80歳そこそこでもまだまだ元気でやれるという方も結構います。ざりざりと何でもやるよというような感じがありますので、継続で伸びる、年齢を上げるということとは不可能なのかどうか、ちょっと参考までお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（佐々木順子） 議員おっしゃるように、健康で活動が可能な方はいらっしゃいますので、78歳までという一定の基準はございますが、それを超えた方でも推薦会を経て県に提出する際には、理由書という形で78歳を超えても活動ができるということ

添えて提出いたしております。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） もし、そういう方が存在すれば、すごいよい例になるなと思います。可能であれば、そういう努力もしていただきたいと思います。

あと、市独自の支援ということで、大分条件がよくなってきておりますけれども、もっともっと活動、行動するに当たっての市の支援をもっとしてあげることによって、もっともっと自分がやってもいいよという人が増えるのではないかということをもっと検討していただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（工藤和行） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（佐々木順子） 無報酬ではありますが、まず活動費として県から交付される補助金とほぼ同額の活動費を支給して活動していただいております。そのほか、今回の推薦に当たっても、民生委員の活動内容を記した説明書きのようなものを添えて、町内会長さんが推薦する方を探す場合に、説明可能なようにして配慮したものを添えて通知を出しております。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 前の改選と今の改選、よく聞かれるのは、一般質問でもお話ししましたがけれども、町内会長が任期になると辞めていくというものは、どれくらい感じているのかお願いします。

◎議長（工藤和行） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（佐々木順子） そちらにつきましては、市のところまでは情報が来ておりませんので、私のところでは把握しておりません。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 今回の改選もうまくまとまっていくことを願います。

次に、公民館のコミュニティセンター化についてであります。

市長のほうから、先ほど感触がいいというような感じでありましてありますが、やっぱり聞こえてくるのは、世帯数の少ない、小さな地区というものは容易ではないなという声が聞こえてくるのは確かであります。そういう点、担当課はつかんでいるのかどうかお願いいたします。

◎議長（工藤和行） 企画財政部長。

◎企画財政部長（樋口秀仁） 先日5月21日に、地区協議会長、そして事務局長と一緒に、我々会議しております。そのときには、協議会長、事務局長のほうからは非常に笑顔で前のめりな発言が非常に多かったと感じております。今、中田博文議員がおっしゃったような発言というのは、我々のところには今のところ聞こえていない。ただ、会長さんたちには、一応幾度とな

くお話しかけをしています。また、今月もそのようなお話をしますので、再度そこは確認してみたいと思います。

以上です。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 担当部長、課長が出たり、ものによっては市長さんが出たりすると、物を申したくても意見なり反論的なものを言えないまま帰ってきて、本当はこれこれこういうあれだった、こういうふうなことを言いたかったというのが後から地域、地区で話になっているということでありますので、そういう確認的なものをしっかりとやっていくべきではないかなと思いますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（工藤和行） 企画財政部長。

◎企画財政部長（樋口秀仁） 議会が終わりましてから7月にかけて、また10地区との意見交換会がございます。それと並行して、企画課としても各地区と協議をする予定となっておりますので、その辺も勘案して懇切丁寧に説明、そして意見を聴いていきたいと思っております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 実際、1回目の話合いとは違って、最近は本当に数多くの方々がいい制度だよというような感じで、評価的なものはすごい前向きな感じになってきているのは私たちも感じております。しかし、まだまだ疑問、疑念を抱いている方がいるということは、センター化になれば仕事とかそういう義務的なものが、市に変わってやらなければいけないという不安がまだあるのは確かだと思いますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（工藤和行） 企画財政部長。

◎企画財政部長（樋口秀仁） 我々としては、その辺も加味いたしまして、会長、事務局長と公民館職員と一緒に合同会議を持つのではなくて、個別に公民館職員のみと協議し、また会長、事務局長と一緒に協議をする。そのようにすみ分けをして、本当のところを聞き出していききたいなというふうに考えております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 10地区の皆さんが心よくスタートできるよう頑張っていたいただきたいと思います。

次に、3番目の街路灯についてであります。

ちょっと疑問を持つのは、九、十年前、あれだけ当時の総務部長が「各町内会で電気代をためておいてください。しっかり徴収する」というような感じのやり取りが議場であったという

ことで、なぜ急にそれが変わったのかという説明はありましたけれども、まだまだその点に関して納得できないというのは、一生懸命ためてこれから自分たちで電気代を払っていく、街路灯の更新もしていかなければいけないということで、本当に真面目にものを考えてやっていた町内があるわけです。そういう人たちに対して、行政のほうで勝手にものを変えてしまって、がっかりしている町内もあるように聞こえてきておりますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（工藤和行） 総務部長。

◎総務部長（中田憲人） 当時、そういう説明があったかと思います。しかし、今の社会情勢、それから人口減少、各町内会の活動の縮小、そして今これから訪れる更新——1基当たり3万円かかるということで、20基持っている町内であれば60万円かかる。それらの費用を勘案したときに、それらの負担を町内会が負うのはちょっと厳しいというのが市の見解であります。

今、中田博文議員がおっしゃったように、一生懸命集めて基金として積んでいる町内もあれば、そうでもないという町内もあるとも聞き及んでいます。その辺につきましても、先ほどのコミュニティセンターと同じように、6月から7月に各地区協議会を回ります。その際にLEDの街路灯についてもテーマとして、もう一度地元のほうとお話ししてまいります。

以上です。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 多分、ほとんどの町内が市のほうで賄うということでほっと安心している。本心はそういうところがほとんどだと思います。でも、ちょっとがっかりするのは、あれだけ強く実施をしようとしていた役所が——やっぱり本来であれば、昔のままの流れで幾らかでも負担する、逆に市のほうで補助していくというやり方から緩和していくというやり方をしたほうがよかったのではないかなということ、一人勝手に考えますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（工藤和行） 総務部長。

◎総務部長（中田憲人） 今回、地区協議会に対して町内会から1基当たり500円を納めていただく考え方が、年間の電気料を考えたときに、約3割程度という負担になるということで説明申し上げました。これは、地区協議会に行ったときに地区協議会の自主的な事業の財源として使っていただきたい。そういうことで、今年の1月、2月に各町内会を回っています。

その際には、具体的な内容として、地域の子供や高齢者に防犯グッズを提供するだとか、地域に交通安全の看板を設置する、自主防災の備品や備蓄品の購入、それから災害時に備えた貯蓄など、各町内会とその辺は話をしながら——ほとんどの町内会はそういうふうなことで了解を得ているということを御理解いただきたいと思います。

以上です。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 過去にこの議場で私は、街路灯に関して——町内もそれは街路灯を使いますけれども、市内にあって、市外の人も市内の人も道路を通る以上は街路灯を必要とするということ述べたことがあって、その当時は町内にも負担してもらおうということが今一元化ということ市でやる。これが本来当たり前のことで、もっともっと前からそういうことを考えていただきたいなど、喜びながらもちょっと残念に思うところもあります。そういうことで、いい方向で行くわけですので、今後とも町内会とうまくやっていただきたいと思います。

次に、4番の雪害による市内の建築物の被害の再質問をさせていただきます。

答弁を聞いておりますと、空き家の被害状況等も結構あります。ということ考えた場合、市で行った処分等があれば、内容と件数等をお願いいたします。

◎議長（工藤和行） 総務部長。

◎総務部長（中田憲人） 今回の豪雪を受けまして、市では危険な空き家に対して、これまで2件の緊急安全措置を実施しています。

1件目は、適正な管理を行うように相続人に通知していた空き家があるのですが、これが昨年12月に倒壊しました。瓦礫が隣の家に接触した状態が続いたため、そのまま放置すると近隣住民への人的被害や周辺的生活環境に悪影響を及ぼすおそれが高いものと判断し、黒石市空家等の適切な管理に関する条例に規定する緊急安全措置を実施いたしました。

緊急安全措置では、3月28日に当該空き家を解体し、その瓦礫等を集めてネットで養生することで、飛散防止対策を行っています。

次に、2件目ですが、今年の3月に空き家の2階部分が道路側に傾いており、非常に危険な状態であったことから、黒石警察署と黒石消防署に情報を提供した上で、規制テープなどを設置しました。しかしその後、そのまま放置しておく壁が道路側に倒れる可能性があって、周辺が交通量も多い場所で二次被害を及ぼす危険が高いと判断し、緊急安全措置を実施しております。

その緊急安全措置では、当該空き家の傾いている壁のモルタルを剥がして軽減を図った上で、道路側へ崩れないようにはりと建物に太いロープをくくりつける作業を行い、3月28日に完了しております。

いずれの案件も、今回の豪雪により、雪の重みで屋根が損壊し倒壊の危険性が高まったものと認識しております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 特に、今年の豪雪被害ということで、結構いろいろなところで被害を被って、保険とかそういうところに入っている方々は、徐々に整理、解体してきれいになっている

ところも結構ありますけれども、まだまだそのままになっているところ、そしてまた、倒壊して——役所でも手をかけたのか分かりませんが、ぺっちゃんこになっているところもこれからまだまだ増えていくのかなと思いますけれども、もっともっと何か国の制度とかそういうものが変わらなければ何も変わっていかないのか、市独自でももう少し何か検討していただきたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（工藤和行） 総務部長。

◎総務部長（中田憲人） まず、空き家に対する市の支援であります。新たに組み込んだ内容として、今回、空き家に対する市の支援としては、国の補助金を活用して危険空き家の除却に要する費用の一部を補助する、黒石市危険空き家等除却事業費補助金を令和7年度の新規事業として開始しております。補助率が5分の2で、補助金の上限は50万円となっていて、5月19日から受付開始したところ、10件ほどの問合せと4件の申込みを受けています。

そのほかの支援策として、弘前圏域の空き家・空き地バンクに登録された市内の空き家を購入する方に対して、改修工事に要する費用の一部を補助する黒石市空き家利活用事業補助金があります。これは、補助金の上限は30万円、移住者の場合は60万円となっております。

それから、空き家はますます増えてきております。市の考え方としては、基本、空き家の管理については、まず、所有者に適切な管理を行っていただくということが原則であります。市に通報があったときは、当市の防災管理室の職員が直ちに現場を確認して、所有者の調査を行って、所有者や相続人がいた場合、現状を伝える通知文書を送付しています。その上で、現場の危険性や緊急度合いを考慮して、所有者などによる対応がどうしてもできない、難しいことを確認した場合に、緊急安全措置などの対応を検討していくこととしております。

以上です。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 答弁ありがとうございます。ただ、「自分のところの隣を見に来てください。建物が建っているけれども、前よりも酷くなっているんで見に来てください」と、何人かからそういう要望があって見に行き、担当課のほうにお話しするんですけども、見ていると見た目も悪い、危ない危険というものもまだまだ件数は存在していますので、もう少し踏み込んだ形で市のほうでも対処していただきたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（工藤和行） 総務部長。

◎総務部長（中田憲人） 確かに今回の雪で、空き家の屋根が潰れたことによってトタンが出たり、外壁が絡んだりということで——これまで空き家であってでも普通の建物の形をしていたわけですね。それが非常に危険で見た目も非常に悪い、はっきり言って3月、4月になって私たちもすごく困惑していますし、こんなにあるのかなという思いもあります。これは当市に

限らず全国的な問題でありますので、他市の取組を注視しながら、どのような対応をすればいいのか検討してまいりたいと思います。

以上です。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） ありがとうございます。

次に、5番目の農林被害の件なんですけれども、件数も多いということ考えた場合、単純に農林部が見て、これは最悪だというのは——そう件数はないと思いますけれども、そういう度合い的なものが分かればお願いいたします。

◎議長（工藤和行） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 担当課では現場も確認してございます。様々な被害状況がありますけれども、かなり甚大な被害というところで捉えているところでございます。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） めったにない災害ですので、何とかできるだけの御支援をよろしく願いいたします。

次に、最後の市民文化会館の件であります。

先ほど、答弁していただきましたけれども、過去にも黒石小学校、わのまちセンターの大きいプロジェクトが終われば、市の事業の中の検討的な順番に入れると過去の部長は答えているわけです。今また聞くと、何々できてからと。じゃあいつまで待てばいいのか。ある程度の予測は担当のほうではつかんでいると思いますけれども、どういうふうに考えて市民に伝えていけばいいのかということをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 繰り返しの答弁になってしまいますけれども、教育委員会としては、社会教育施設として、また文化振興の拠点としては必要である施設と考えてございます。

引き続き、再開を念頭に施設の維持管理を行いながら、先ほど申し上げたように、現在実施されている事業の進捗を見据えながら時期を模索してまいりたいと考えてございます。

以上です。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） また同じ質問をすると議長に止められるかもしれませんが、市長も佐々木隆議員への答弁でも、市全体の計画の中で考えるということ述べているわけです。いつそれを協議、検討するのかということは、全然、方針というものも何も出てこない。大体でもいい

から、めど的なものを述べるができないのかということをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 現段階では、再開の検討のめどというのをお答えできない状況にあることを御理解いただきたいと思います。

◎議長（工藤和行） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 担当課も市長も苦しいのは分かります。結果的には、再開はできない——もしも、再開ができないということになると、解体の準備をしなければいけない。解体費も物すごい金額に上るということを考えた場合、ずるずると長引かせていったほうが、市長も担当課もある意味では楽だということになるわけです。でも、これはやっぱり市民に対して失礼なやり方かなと私自身は思うんです。再開のめど、もしも10億円、20億円かかると。やるんだという思いがあれば、再開のための5年後、10年後やるんだよという何かしらのものが出てこなければいけないし、解体費、改修費を考えてできないのであれば、断念ということを誰かが苦渋の選択を、決断をしなければいけないということを、今まで誰も答えてくれる人はいませんでした。ということで、何かしらのものを出してください。なければ、また継続で取り上げていきたいと思えますけれども、何かコメントをお願いいたします。

◎議長（工藤和行） 中田博文議員に申し上げます。

自分の主張を相手が受け入れ、気に入る答弁をするまで執拗に答弁を求めることはしてはならないとされております。先ほど来、同じような質問の繰り返しになっておりますので注意いたします。

13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） やはり文化会館を結果的には使っていないものですから、周りを見ても草ぼうぼうとか、周りや外壁が汚いとかというものも感じられますので、市の公共施設ですので、もう少しお金をかけないような形できれいにしていきたい。市民が見ても、あまりいい感じは持てません。違和感を感じますので、そういうことも市のものでありますので大事にしていきたいと思えますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（工藤和行） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（駒井俊也） 周りの草木などは環境整備として行っておりますけれども、さすがに壁全体となるとかなりの経費が必要になるかと思っておりますので、なかなか厳しいかなというふうに考えてございます。

以上です。

◎議長（工藤和行） 以上で、13番中田博文議員の一般質問を終わります。

◎議長（工藤和行） 本日は、これにて散会いたします。

午後3時04分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

令和7年6月11日

黒石市議会議長 工藤和行

黒石市議会議員 後藤隆夫

黒石市議会議員 村上隆昭